

高等学校 令和6年度（3学年用）語 教科 国語 科目 漢文演習

教科：国語 科目：漢文演習 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：

使用教科書：（大修館書店「古典探究」・尚文出版精選漢文・古典完答22・いづな書店漢文総演習）

教科 国語の目標

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、能力を育成することを目指す。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で、伝え合う力を高め、思考力・判断力を磨く。

【学びに向かう力、人間性等】言葉の持つ価値への認識を高め、言語感覚を磨き、言語文化の担い手としての自覚を持たせる。

科目 漢文演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ、自己を向上させ、言語文化の担い手としての自覚を持ち、他者や社会と関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	漢文基礎の復習 ・漢文の構造 ・訓読の仕方 ・書き下し文の決まりごと	「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「古典完答22」にて、共通テスト対策問題を解き、解説する。	○	○	○	・漢文の基礎が出来ているか。 ・漢文に訓読できるか。 ・書き下し文の決まりごとが分っているか。	○	○	○	4
	漢文の句形の理解 否定形 問形 形 形	「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「古典完答22」にて、共通テスト対策問題を解き、解説する。	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1
	漢文の句形の理解 願望形 受身形 使役形	「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「古典完答22」にて、共通テスト対策問題を解き、解説する。	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。	○	○	○	4
	漢文の句形の理解 限定形 加形 較形 形	「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「古典完答22」にて、共通テスト対策問題を解き、解説する。	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。	○	○	○	4
定期考査						○	○		1	
2 学 期	漢文の句形の理解 選択形 揚形 辞法	「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「古典完答22」にて、共通テスト対策問題を解き、解説する。	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。 ・初読の漢文を読み、ある程度内容が理解できるか。	○	○	○	4
	漢文の用字の理解 基本重要語 読文字・置き字	「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「漢文総演習」にて、一般入試対策問題を解き、解説する。	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。 ・初読の漢文を読み、ある程度内容が理解できるか。	○	○	○	4
	定期考査						○	○		1
	漢文の用字の理解 疑問形・反語形・詠嘆形に使われる語。	「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「漢文総演習」にて、一般入試対策問題を解き、解説する。	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。 ・初読の漢文を読み、ある程度内容が理解できるか。	○	○	○	4
	漢文の用字の理解 受身形・使役形に使われる語。 ・仮定形・限定形に使われる語。	「精選漢文」にて、需要項目の確認。プリントで演習問題を解き、答え合わせをする。「漢文総演習」にて、一般入試対策問題を解き、解説する。	○	○	○	・漢文の基本的な句形が理解できているか。 ・漢字が読め、正確に訓導し、書き下し文にできるか。 ・初読の漢文を読み、ある程度内容が理解できるか。	○	○	○	4
定期考査						○	○		1	

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 国語 科目 論理国語演習

教科：国語 科目：論理国語演習 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～ F組

教科担当者：

使用教材：（啓隆社『過程の演習 新国語問題集アシスト 第22集 現代文編』）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力ようにする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。 ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めようとしている。 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			読 書	聞 取	説 明					
1 学 期	問題演習1 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。	問題演習	○	○		・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
2 学 期	問題演習2 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	問題演習	○	○		・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
3 学 期	問題演習2 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。	問題演習	○	○		・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	○	○	○	20
	定期考査						○	○		1
										合計
										63

高等学校 令和6年度（3学年用）教科 公民 科目 政治・経済

教科：公民 科目：政治・経済 演習 単位数：4 単位

対象学年組：第3学年 A組～ F組 選択者

教科担当者：

使用教科書：（実教出版 詳述 政治・経済）

教科 公民 の目標：人間の尊厳と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考える力を養い、良識ある公民として必要な能力を育てる。

【知識及び技能】現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させる。

【思考力、判断力、表現力等】現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる

【学びに向かう力、人間性等】現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。

科目 政治・経済 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
政治・経済に関する事項について、身近な事象を事例として取り上げ、生徒が具体物を通じて政治的・経済的現象を考察できる能力を育てる。	政治的分野、経済的分野、国際関係分野の基本用語を正しく理解させ、用語の意味を自分の言葉で説明できるようにする。	授業ごとに学習事項についてのまとめを生徒に記述させたり、適宜レポートを課すなどして、要約力・表現力の向上を図る取組を実施する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 1. 現代日本の政治 【知識及び技能】 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障、議会制民主主義等について、現実社会の諸事情を通して理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・第1章 民主政治の基本原則 ・第2章 日本国憲法の基本的性格 ・第3章 日本の政治機構 ・第4章 現代日本の政治 上記各章に関する問題演習	【知識及び技能】 ・政治の本質、民主政治の意義と課題、人権保障の重要性について、理解している。 ・日本国憲法の基本的性格、日本の政治機構の特徴、地方自治の課題について理解している。 ・日本の政党政治の特徴と課題、選挙制度の特徴と課題について、理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 民主政治の基本原則、現代日本の政治に関する事項について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	20
	定期考査			○	○	○	1
	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 2. 現代日本の経済 【知識及び技能】 現代の経済に関わる事象から課題を見だし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、様々な立場を踏まえながら公正に判断理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現代の経済に関わる諸資料を様々な手段を通して収集し、かつ、集めた情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・第1章 経済社会の変容 ・第2章 現代経済の仕組み ・第3章 現代経済と福祉の向上 上記各章に関する問題演習	【知識及び技能】 経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察できる。 【思考力、判断力、表現力等】 国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解し、グローバル化が進む国際経済の特質について把握及び、国際経済における日本の役割について、多面的・多角的に考察し、それを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	26
	定期考査			○	○	○	1

2 学 期	<p>A. 現代日本における政治・経済の諸課題</p> <p>3. 現代日本における諸課題の探求</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>少子高齢社会と社会保障、地域経済の変貌と住民生活、雇用と労働を巡る問題、産業構造の変化と中小企業、農業と食糧問題などについて、政治と経済とを関連させて探求させる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>社会保障、地方の活性化全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	<p>・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化</p> <p>・地域社会の自立と政府</p> <p>・防災と安全安心な社会の実現</p> <p>上記各項目に関する問題演習</p>	<p>【知識及び技能】</p> <p>日本経済の発達の推移、中小企業問題、日本の農業、国民の生活、環境・公害問題、労働問題、社会保障の役割等について学習し、さまざまな課題にどのように取り組むべきか考えることができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>現代社会における諸課題に関して、政治経済他多方面の事象と関連付けながら、多面的・多角的に考察し、解決策等について表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。</p>	○	○	○	10
	<p>B. グローバル化する国際社会の諸課題現代</p> <p>1. 現代の国際政治</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>国際政治と国際法の意義、国際連合の成立と活動、東西冷戦終結後の国際政治、核軍縮や管理について学習し、国際政治と日本の関係について考える。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>軍事力や力の政治によってのみでは、国際問題の最終的解決は不可能であり、国連をはじめとする多国間での協議の必要性、重要性に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	<p>・国際政治の特質と国際法</p> <p>・現代国際政治の動向</p> <p>・国際連合と国際協力</p> <p>上記各項目に関する問題演習</p>	<p>B. グローバル化する国際社会の諸課題現代</p> <p>1. 現代の国際政治</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>国際社会の変遷、人種、主権国家、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>国際政治の特質や国際紛争の諸要因について把握し、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察し、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>				24
	定期考査						1
	<p>B. グローバル化する国際社会の諸課題現代</p> <p>2. 現代の国際経済</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支に関する事項について理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>相互依存関係が深まる国際経済の特質について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	<p>・商品・資本の流れと国際収支</p> <p>・国際経済体制の変化</p> <p>・グローバル化と世界金融</p>	<p>【知識及び技能】</p> <p>貿易の意義、為替相場や国際収支の仕組み、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解できる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>グローバル化が進む国際経済の特質について把握し、国際経済における日本の役割について多面的に考察し、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	○	○	○	24
	<p>B. グローバル化する国際社会の諸課題</p> <p>3. 国際社会の諸課題の探求</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>現代の政治・経済・国際関係に関わる事象から課題を見だし、その課題の本質や望ましい解決の在り方などについて、広い視野に立って多角的・多面的に考察し、様々な立場を踏まえながら公正に判断している。グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容に関して、理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々な手段を通して収集し、かつ、集めた情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	<p>・紛争の解決に向けた国際社会の取り組み</p> <p>・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容。</p> <p>・イノベーションと市場経済</p> <p>上記項目に関する問題演習</p>	<p>【知識及び技能】</p> <p>現代の国際政治、国際経済、国際関係に関する基本的な事柄や理論などを理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>国際社会の中で、民主主義がどのように実現されているか理解し、様々な国際機関の果たす役割に関して考察し、今後の国際社会のあるべき姿について考え、表現できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。</p>	○	○	○	12
定期考査				○	○	○	1
<p>・大学入試等への応用力養成</p> <p>・問題演習</p>	個別指導						

高等学校 令和6年度（3学年用）教科 公民 科目 政治・経済

教科：公民 科目：政治・経済 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 A組～F組

教科担当者：

使用教科書：（実教出版 詳述 政治・経済）

教科 公民 の目標： 人間の尊厳と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考える力を養い、良識ある公民として必要な能力を育てる。

【知識及び技能】現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させる。

【思考力、判断力、表現力等】現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる

【学びに向かう力、人間性等】現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。

科目 政治・経済 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
政治・経済に関する事項について、身近な事象を事例として取り上げ、生徒が具体物を通じて政治的・経済的現象を考察できる能力を育てる。	政治的分野、経済的分野、国際関係分野の基本用語を正しく理解させ、用語の意味を自分の言葉で説明できるようにする。	授業ごとに学習事項についてのまとめを生徒に記述させたり、適宜レポートを課すなどして、要約力・表現力の向上を図る取組を実施する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 1. 現代日本の政治 【知識及び技能】 日本国憲法の成立、日本国憲法における平和主義、基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 基本的人権の意義、法の支配、民主政治の発達と人権の発達、世界の政治体制、20世紀の教訓を学習し、民主政治の課題は何か考える。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・第1章 民主政治の基本原則 ・第2章 日本国憲法の基本的性格 ・第3章 日本の政治機構 ・第4章 現代日本の政治	【知識及び技能】 現代の日本の政治及び動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を尊重し擁護することの意義を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 民主主義の本質について把握させ、政治についての基本的な考え方を身につけ、民主政治の基本原則、現代日本の政治に関する事項について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	9
	定期考査			○	○	○	1
	A. 現代日本における政治・経済の諸課題 2. 現代日本の経済 【知識及び技能】 経済活動と市場、経済主体と経済循環、財政・金融の仕組み及び意義について、現実社会の諸事情を通して理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 経済活動と社会福祉全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。	・第1章 経済社会の変容 ・第2章 現代経済の仕組み ・第3章 現代経済と福祉の向上	【知識及び技能】 ・経済の仕組みの歴史の変遷、資本主義の本質と課題に関して理解している。 ・市場の機能と各経済主体の役割等に関して理解している。 ・現代企業の特徴、経済成長、景気循環に関する事項について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 現代日本の経済の現状を踏まえつつ、現実社会の諸事情に関して、多面的・多角的に考察し、それを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。	○	○	○	13
定期考査				○	○	○	1

2 学 期	<p>A. 現代日本における政治・経済の諸課題</p> <p>3. 現代日本における諸課題の探求</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>少子高齢化における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立等に関する事項を通して理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>社会保障、地方の活性化全般に関する事項に関して、多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化 地域社会の自立と政府 防災と安全安心な社会の実現 	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化の実態、推移等の事項に関して理解している。 社会保障の実現、課題等に関して十分理解している。 地域社会の活性化に関する事項に関して理解している。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>地方自治の本旨に基づく行政はどうあるべきか、住民と自治体の連携はどうあるべきか、多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。</p>	○	○	○	5
	<p>B. グローバル化する国際社会の諸課題</p> <p>1. 現代の国際政治</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>国際社会の変遷、人権、国家主権に関する事項について理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に国際法の果たす役割について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国際政治の特質と国際法 現代国際政治の動向 国際連合と国際協力 	<p>B. グローバル化する国際社会の諸課題現代</p> <p>1. 現代の国際政治</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>国際政治の本質・意義、主権国家を基本単位とする国際社会がどんな政治を生み出してきたのかを、十分に理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>国際社会における人権保障の取り組み、及び、人権保障に関する問題点・課題について多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	○	○	○	8
	定期考査						
	<p>B. グローバル化する国際社会の諸課題現代</p> <p>2. 現代の国際経済</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支に関する事項について理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>相互依存関係が深まる国際経済の特質について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 商品・資本の流れと国際収支 国際経済体制の変化 グローバル化と世界金融 	<p>【知識及び技能】</p> <p>国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について現実社会の諸事情を通して、理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>国際経済において、果たすことが求められる日本の役割について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	○	○	○	10
	<p>B. グローバル化する国際社会の諸課題現代</p> <p>3. 国際社会の諸課題の探求</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容に関して、理解を深める。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>国際経済格差の是正と国際協力について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 紛争の解決に向けた国際社会の取り組み グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容。 イノベーションと市場経済 	<p>【知識及び技能】</p> <p>グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容に内在する問題点、課題に関して、十分理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>世界に広がる経済格差に関して、国際社会はどうあるべきか、多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>社会との関りを意識した課題を追究し、学習活動の充実を図ることができる。</p>	○	○	○	6
定期考査				○	○	○	1
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試等への応用力養成 問題演習 	個別指導					
	定期考査				○	○	○
							合計

高等学校 令和6年度 教科 地理歴史 科目 世界史演習

教科：地理歴史 科目：世界史演習 単位数：4 単位

対象学年組：第3学年 A組～F組

教科担当者：

使用教科書：（山川出版社「世界史探究 詳説世界史」）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して高められる日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推察、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して高められる日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
D、諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 産業革命とアメリカ独立、フランス革命とナポレオンの展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 大西洋沿岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、産業革命やアメリカ独立、フランス革命につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第12章 産業革命と環大西洋革命 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 テーマ史・文化史の視点を交えて説明する。 30～90字程度の論述問題に関する技法の説明・演習を行う。	【知識・技能】 概ね18世紀後半の世界について、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね18世紀後半の世界について、様々な資料をもとに、産業革命と市民革命が今日の世界に残した遺産である“国民国家”の理念について、今日の世界におけるグローバル化の潮流と比較・検討しつつ多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
D、諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 大西洋沿岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、自由主義とナショナリズムの特徴、南北アメリカの変容につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 テーマ史・文化史の視点を交えて説明する。 30～90字程度の論述問題に関する技法の説明・演習を行う。	【知識・技能】 概ね19世紀前半の世界について、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね19世紀前半の世界について、様々な資料をもとに、当時の国際関係の基調が英露間の“グレートゲーム”を軸に展開したことを、地政学やシーレーン防衛の観点から今日の中ロの動向と比較・検討しつつ多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	16
1学期中間考査			○	○	○	1
D、諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特徴につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 テーマ史・文化史の視点を交えて説明する。 30～90字程度の論述問題に関する技法の説明・演習を行う。	【知識・技能】 概ね19世紀後半の世界について、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね19世紀後半の世界について、様々な資料をもとに、欧米からの外圧に対処したアジア諸国の取組を、今日のNies諸国やBRICS諸国の頭脳や地域経済協力の現状と比較・検討しつつ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	24
1学期期末考査			○	○	○	1

2 学 期	D. 諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴につき多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 大学入学共通テスト、及び受講者の志望大学に沿った大学入試問題の演習を行う。	【知識・技能】 概ね19世紀後半の世界について、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね19世紀後半の世界について、様々な資料をもとに、帝国主義の実態と問題点について、“一帯一路”構想などに象徴される中華人民共和国の今日における動向と比較・検討しつつ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	D. 諸地域の結合・変容 【知識及び技能】 第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて読み解き、大戦後の国際協調主義とアジア・アフリカのナショナリズムを多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の交流と再編について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第16章 第一次世界大戦と世界の変容 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 大学入学共通テスト、及び受講者の志望大学に沿った大学入試問題の演習を行う。	【知識・技能】 概ね20世紀前半の世界について、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね20世紀前半の世界について、様々な資料をもとに、覇権国家が英から米へ推移する有様、及び“民族自決”の実態を、20世紀における米ソ対立、及び今日の民族紛争などと比較・検討しつつ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	14
	2学期中間考査			○	○	○	1
3 学 期	D. 諸地域の結合・変容 E. 地球世界の課題 【知識及び技能】 世界恐慌から冷戦終結に至る国際情勢を基に、国際関係の緊張と対立を構造的に理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 世界恐慌から冷戦終結に至る諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けて読み解き、20世紀における国際関係の変化とアジア諸地域の独立について多面的・多角的に考察し、表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の結合・変容について主体的に関わり、見通しをもって学習に臨み、科学的に探求しようとする態度を養うこと。	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第18章 冷戦と第三世界の台頭 「歴史総合」における既習範囲のため、簡単に復習する。 大学入学共通テスト、及び受講者の志望大学に沿った大学入試問題の演習を行う。	【知識・技能】 概ね20世紀後半までの世界について、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 概ね20世紀後半までの世界について、様々な資料をもとに、間戦期における国際協調の破綻から冷戦終結に至る経緯を、今日の地球社会に直接的な教訓を与える時代という面から多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	○	○	○	24
	2学期期末考査			○	○	○	1
	大学入試問題演習	必要に応じて、個別指導を行う。					40
	学年末考査			○	○	○	1
						合計	145

高等学校 令和6年度（3学年用）教科

地理歴史科 科目 日本史演習

教科：地理歴史科

科目：日本史演習

単位数：4 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

教科担当者：

使用教科書：（日本史探究『詳説日本史』）

教科 地理歴史科

の目標：

【知識及び技能】日本列島の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】歴史事象の意味や意義、特色や相互の関連を概念的に理解し、多面的・多角的に考察したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】歴史事象について、主体的に理解しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、日本や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史演習

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて受験等に対応できる知識を身に付けると共に、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切まとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在のつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察・構想したことを効果的に説明したり、問題に解答したり、またそれらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第7章 武家社会の成長 【知識及び技能】 諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。	1 室町幕府の成立 鎌倉幕府の滅亡/建武の新政/南北朝の動乱/守護大名と国人一揆/室町幕府/東アジアとの交易/琉球と蝦夷ヶ島 2 幕府の衰退と庶民の台頭 惣村の形成/幕府の動揺と土一揆/応仁の乱と国一揆/農業の発達/商工業の発達 3 室町文化 文化の融合/動乱期の文化/室町文化の成立/室町文化の展開/庶民文化の流行/文化の地方普及/新仏教の発展 4 戦国大名の登場 戦国大名/戦国大名の分国支配	【知識・技能】 諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭して村などの自治的な単位が成立したことを理解している。 【思考・判断・表現】 自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○		20
	定期考査			○	○		1
	第8章 近世の幕開け 【知識及び技能】 織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 中世から近世への変化について考察し、時代を通観しようとする。	1 織豊政権 近世への転換/銀の交易と鉄砲伝来/キリスト教と南蛮貿易/織田政権/豊臣秀吉の全国統一/土地・身分政策/対外政策と侵略戦争 2 桃山文化 桃山文化/美術と風俗/芸能の新展開/国際的な文化の交流	【知識・技能】 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。 【思考・判断・表現】 豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。	○	○	○	20
定期考査			○	○		1	
2 学期	第9章 幕藩体制の成立と展開 【知識及び技能】 江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。	1 幕藩体制の成立 江戸幕府の成立/幕藩体制/幕府と藩の機構/天皇と朝廷/禁教と寺社/江戸時代初期の外交/鎖国政策/長崎貿易/朝鮮と琉球・蝦夷地/寛永期の文化 2 幕藩社会の構造 身分と社会/村と百姓/町と町人/農業/林業・漁業/手工業・鉱山業/商業 3 幕政の安定 平和と秩序の確立/元禄時代/正徳の政治	【知識・技能】 織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。 【思考・判断・表現】 戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
	第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 【知識及び技能】 経済の発展と町人文化について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連して理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展を諸産業相互の関係やその社会的役割を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。	4 経済の発展 農業生産の進展/諸産業の発達/交通の整備と発展/貨幣と金融/三都の発展/商業の展開 5 元禄文化 元禄期の文学/儒学の興隆/学問問の発展/元禄美術 1 幕政の改革 享保の改革/田沼時代 2 宝暦・天明期の文化 洋学と国学の発展/尊王論 3 幕府の衰退と近代への道 寛政の改革/鎖国の動揺/天保の改革 4 化政文化	【知識・技能】 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。 【思考・判断・表現】 幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	26
定期考査			○	○		1	

3 学 期	受験問題演習	受験問題演習					
							合計
						96	

年間授業計画

高等学校 令和6年度(3学年用) 教科

数学 科目 数学Ⅲ

教科: 数学

科目: 数学Ⅲ

単位数: 3 単位

対象学年組: 第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者:

使用教科書: (数研出版 NEXT 数学Ⅲ)

教科 数学 の目標:

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅲ の目標:

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的にりかきするとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
A 関数 【知識及び技能】 関数を扱うための基本的な用語や定義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 数や式を多面的に見たり、目的に応じた式の変形ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい計算方法や方法について、考察する。 既習事項と関連付けて、数の体系を整理し考察する。	・分数関数 ・無理関数 ・逆関数と合成関数 ・数列の極限 ・級数 ・関数の極限	【知識・技能】 関数についての理解をしている。 関数について理解し、逆関数のしくみを理解している。 数列の公式を理解し、使えるようにする。極限について理解している。 【思考・判断・表現】 工夫することで式の展開を簡略化することができる。式によって適切な方法を判断して極限について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。極限を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	9
B 極限 【知識及び技能】 三角関数の性質について理解する。 関数の連続性について説明ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 関数の連続性の性質をもとに証明方法を考察したり、具体的な事象についての問題解決に関数を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数学化し、それを解決する。 また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・三角関数の極限 ・関数の連続性	【知識・技能】 関数についての理解をしている。 関数について理解し、逆関数のしくみを理解している。 数列の公式を理解し、使えるようにする。極限について理解している。 【思考・判断・表現】 工夫することで式の展開を簡略化することができる。式によって適切な方法を判断して極限について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。極限を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	9
C 微分法 【知識及び技能】 微分係数と導関数の意義を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 導関数の計算について理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、関数を問題解決に活用する。	・微分係数と導関数 ・導関数の計算 ・いろいろな関数の導関数 ・第 n 次導関数	【知識・技能】 微分係数と導関数について理解し、微分係数を導出することができる。 【思考・判断・表現】 導関数を理解し、使いこなせるようにする。 様々な導関数を作れる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	9
D 微分法の応用 【知識及び技能】 平均値の定理について理解し、簡平均値の定理を利用して問題を考察できる。 【思考力、判断力、表現力等】 接線を理解し、接線の方程式をつくることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、方程式を問題解決に活用する。	・接線の方程式 ・平均値の定理	【知識・技能】 平均値の定理をりようして解くことができる。 【思考・判断・表現】 接線の方程式が求められる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。既習事項を応用し、問題解決に取り組める。	○	○	○	9

	<p>E 積分法</p> <p>【知識及び技能】 積分について理解し、その計算ができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 置換積分、部分積分を用いて様々な関数を積分できる。部分積分と漸化式の関係について考察できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、図形・方程式を用いて解決しようとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 不定積分とその基本性質 置換積分法 部分積分法 	<p>【知識・技能】 積分について理解し、計算できる。</p> <p>【思考・判断・表現】 部分積分、置換積分を活用して、積分できる</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、軌跡の考え方や、既習事項を応用して、多面的に問題を捉えられる。既習事項を応用し、問題を解くことができる。</p>	○	○	○	16
2 学 期	<p>F 積分法的应用</p> <p>【知識及び技能】 積分の特徴について理解すること。積分と面積の関係などの基本的な性質を理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 積分に関する様々な性質について考察するとともに、グラフで囲まれた面積を導くこと。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 積分と面積の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 面積 体積 	<p>【知識・技能】 積分と面積の関係を理解し、積分を用いて面積をだせる。 積分を面積の関係を理解できる、基本的な相互関係を理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 具体的な事象における面積について、関数を用いて捉え、積分の値から求めることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象を数学的に捉え、応用できる。</p>	○	○	○	15
	<p>G テーマ別演習（復習）</p> <p>微分法と積分法</p> <p>【知識及び技能】 微分係数や導関数についての意味を理解し、導関数を導くことができる。導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形を書く方法を理解すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 関数とその導関数との関係について考察すること。微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察すること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察したりすること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 微分係数・導関数 関数の値の増減 極大値・極小値 関数とその導関数との関係 直線と関数のグラフの面積 	<p>【知識・技能】 微分係数や導関数の意味を理解し、導関数を導くことができる。増減表を用いてグラフを書くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 極大値・極小値を理解し、グラフを書ける。直線及び曲線で囲まれた部分の面積を考察し、値をだせる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 関数の局所的な変化に着目し、日常の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴を考察し応用できる。</p>	○	○	○	15
3 学 期				○	○	○	

年間授業計画

高等学校 令和6年度(3学年用) 教科

数学

科目 数学Ⅲ演習

教科: 数学

科目: 数学Ⅲ演習

単位数: 3 単位

対象学年組: 第 3 学年 A 組 ~ F 組

教科担当者:

使用教科書: (数研出版 NEXT 数学Ⅲ, 数学C)

教科 数学

の目標:

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅲ演習

の目標:

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力の育成を目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 複素数平面 【知識及び技能】 複素数の極形式を扱うための基本的な用語や定義について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 複素数を多面的に見たり、目的に応じた式の変形ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい計算方法や方法について、考察する。 既習事項と関連付けて、数の体系を整理し考察する。	・複素数平面 ・複素数の極形式 ・ド・モアブルの定理	【知識・技能】 複素数についての理解をしている。 極形式について理解し、極形式のしくみを理解している。 極形式の公式を理解し、使えるようにする。 【思考・判断・表現】 極形式にすることで問題を考察することができる。式によって適切な方法を判断して問題について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。複素数を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	20
	B 媒介変数と極座標 【知識及び技能】 媒介変数表示の性質について理解する。 極座標について説明ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 媒介変数を考察したり、具体的な事象についての問題解決に媒介変数表示を活用したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 現実の問題について、必要な条件を選んで数学化し、それを解決する。また、得られた解を現実問題に当てはめ直し、それを考察する。	・複素数と図形 ・曲線の媒介変数表示 ・極座標と媒介変数表示	【知識・技能】 媒介変数についての理解をしている。 媒介変数について理解し、極座標のしくみを理解している。 極座標から式の内容を考えられる。極座標について理解している。 【思考・判断・表現】 工夫することで直交座標から極座標にすることができる。式によって適切な方法を判断して極座標について考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 式変形の工夫について、その理由を振り返って考えたり、よりよい方法について考察しようとする。極限を多面的に考察し応用できる。	○	○	○	
	D 微分法の応用 【知識及び技能】 物理の観点から事象を考察できる。 【思考力、判断力、表現力等】 速度、加速度の理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 数学の事象や日常生活の事象について、方程式を問題解決に活用する。	・方程式・不等式への応用 ・速度と加速度 ・近似式	【知識・技能】 微分係数と導関数について理解し、速度、加速度に関連できる。 【思考・判断・表現】 導関数を理解し、超越関数の近似を考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題を解決する際に、既に学習した計算方法と関連付けて、式と多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりする。	○	○	○	
2 学 期	F 積分法の応用 【知識及び技能】 積分の特徴について理解すること。 積分と面積の関係などの基本的な性質を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 積分に関する様々な性質について考察するとともに、放物線の長さを考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 積分と面積の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりする	・道のり ・曲線の長さ	【知識・技能】 積分を利用して長さを出すことができる。 【思考・判断・表現】 曲線の長さが求められる。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学の事象や日常生活の事象について、関数を用いて解決しようとする。既習事項を応用し、問題解決に取り組める。	○	○	○	18

高等学校 令和6年度 教科 数学

科目 数学Ⅱ、B、C 演習

教科：数学

科目：数学Ⅱ、B、C 演習

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 A組～E組

教科担当者：

使用教科書：（ 数研出版 NEXT 数学Ⅱ、B、C シニア数学演習ⅠⅡABC（ベクトル） ）

教科 数学 の目標：

- (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ、B、C 演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学Ⅱ、B、Cについて、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学Ⅱ、B、Cの基礎・基本を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	単元 【知識及び技能】 全範囲の基本的性質等を理解し的確に演算等ができること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の基本的性質等を利用して、応用問題を考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	・式と証明 ・複素数と方程式 ・図形と方程式 ・三角関数 ・指数関数 ・対数関数 ・微分法	【知識・技能】 全範囲の基本的性質等を理解し的確に演算等ができる。 【思考・判断・表現】 全範囲の基本的性質等を利用して、応用した問題を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	単元 【知識及び技能】 全範囲の基本的性質等を理解し的確に演算等ができること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の基本的性質等を利用して、応用問題を考察すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	・積分法 ・数列 ・統計的な推測 ・ベクトル	【知識・技能】 全範囲の基本的性質等を理解し的確に演算等ができる。 【思考・判断・表現】 全範囲の基本的性質等を利用して、応用した問題を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	
2 学 期	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	実践問題（大学入試問題等） ・式と証明 ・複素数と方程式 ・図形と方程式 ・三角関数 ・指数関数 ・対数関数 ・微分法	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	実践問題（大学入試問題等） ・積分法 ・数列 ・統計的な推測 ・ベクトル	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1	
3 学 期	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現すること。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用すること。	大学入試問題	単元 【知識及び技能】 全範囲の総合問題に対応できる知識と技能を身に付けることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 全範囲の入試問題を思考し、論理的な判断を下し、的確に表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、総合的な考えを問題解決に活用することができる。	○	○	○	10

教科 : 理科 科目 : 化学演習

対象学年組 : 第3学年A組~F組

教科担当 :

使用教科書 : 啓林館 高等学校 化学

教科 理科の目標

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解する。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けるとともに、実験結果に対する考察をじゅうぶん行うようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。観察、実験結果に対する内容を適切に伝達・表現できるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 授業で得た結果をもとに発展的な興味関心をもって自主的活動を行うようにする。科学的に探究し、その成果をいかして社会や生活との関連を考えられる態度を養う。

科目 化学の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
観察、実験などを通して、物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	観察、実験の技能を習得するとともに、物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。	化学的な事物・事象のうち、物質の状態変化とその平衡について関心や探究心をもち、意欲的にそれらの理解や探究に取り組むとともに、科学的な自然観を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配 当 時 数
化学基礎 ・化学結合とそれぞれの性質、及び結晶構造を理解させる。 ・結晶の構造を理解させる。・アモルファスの性質を理解させる。 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りを学び、物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解させる。 ・状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解させる。 ・気体の体積と圧力や温度との関係を理解させる。 ・気体定数と状態方程式、分子量の関係を理解させる。 ・溶解の仕組みを理解させること。また、溶解度を溶解平衡と関連づけて理解させる。 ・身近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解させる。 ・コロイド溶液の性質を理解させる。	化学基礎の復習 固体の構造 、物質の状態変化 気体の性質 溶液の性質	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	4 4 4 4
・化学反応における熱の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。 ・物質が変化するとき出入りする熱量(反応エンタルピー)は、最初と最後の状態だけで決まり、反応経路には無関係であることを理解させる。 ・化学反応における光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。 ・電池は、酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みであることを理解させる。 ・外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解させる。また、その反応に関与した物質の変化量と電流量との関係について理解させる。 ・反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解させる。 ・化学反応の仕組みを理解させ、反応速度を速める触媒について理解させる。 ・可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解させる。 ・水のイオン積とpH、弱酸や弱塩基の電離平衡、難溶性塩の溶解平衡について理解させる。	化学反応と熱・光エネルギー・電気エネルギー 化学反応と電気エネルギー 反応速度 化学平衡	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	6 6 4 6
・非金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・典型金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・遷移元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・金属陽イオンの特定や陰イオンとの反応、分離と確認について理解させる。	無機化合物	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	12
・有機化合物の特徴と分類を理解させる。 ・元素分析により、組成式・分子式・構造式が決定されることを理解させる。 ・脂肪酸炭化水素の性質や反応を構造と関連づけて理解させる。 ・不飽和炭化水素、官能基をもつ脂肪酸化合物の性質や反応について理解させる。・ 酸素を含む脂肪酸化合物の性質について理解させる。 ・芳香族化合物の性質について理解させる。・有機化合物の性質を利用して、混合溶液の分離が可能であることを理解させる。	有機化合物	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	12
・高分子化合物の分類や特徴を理解させる。 ・共通テスト形式の問題に慣れ、深く考えることができる。	高分子化合物 共通テスト対策演習	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	8
			○	○	○	

高等学校 令和6年度 教科

理科 科目 物理

教科：理科 科目：物理

単位数：4 単位

対象学年組：第3学年 A組～ B組

教科担当者：

使用教科書：（数研 物理706 物理）

教科 理科 の目標： 物理的なものの見方・考え方を身につけると同時に、より高い科学的自然観を育成する。

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見だし、見直しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
学習した物理の基本的な概念や原理・法則が正しく理解できるようにする。学習した概念や原理・法則をその学習や生活の中で新しい自傷の解釈に応用できるようにする。	課題を遂行するにあたって、科学的・論理的に思考し、判断できるようにする。課題の設定理由、研究過程、結果及びそこから導き出した自らの考えを的確かつ簡潔にわかりやすく相手に伝えられるようにする。	物理的な事物・現象に対して主体的にかかわり、理解できるようにする。物理的な事物・現象に対する気づきから課題を設定し解決できる態度を身に付けさせる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 力と運動	平面運動の速度加速度 落体の運動 剛体に働く力のつり合い 剛体に働く力の合力と重心 運動量と力積 運動量保存の法則 反発係数 等速円運動 慣性力 単振動 万有引力	変位と移動距離の違いを理解している。水平投射は鉛直方向には自由落下、水平方向には等速直線運動をしていることを理解し、適切に式を用いることができる。力のモーメントについて理解している。剛体に働く複数の力の合力を求めることができる。運動量と力積について求め方を理解している。反発係数の式を用いて衝突する物体の運動を調べることができる。等速円運動する物体の回転速度、角速度、周期、回転数などの定義が理解できている。慣性力を含めたつり合いの式を立てることができる。単振動の変位、速度、加速度の式、運動方程式を理解している。ケプラーの法則を理解している。		○		
動く観測者から見た物体の様子を説明できるようにする。斜方投射の様子を鉛直方向と水平方向に分けて説明できるようにする。力のモーメントの式を理解し、腕の長さが異なるときに働く力のモーメントの考察ができるようにする。剛体の点灯する条件を理解し、説明ができるようにする。運動量と力積の関係の式から物体が受ける力積と平均の力について説明することができるようにする。運動量保存の法則が成り立つ条件を説明できるようにする。反発係数と運動量、力学的エネルギーの関係の説明できるようにする。等速円運動の中心方向の運動方程式から物体の運動を考察することができるようにする。慣性力とその他の力の違いを説明ができるようにする。単振り子と周期の公式を用いて重力加速度が異なる場所での運動の様子を説明できるようにする。万有引力の公式を用いて異なる惑星での重力加速度の大きさを比較することができるようにする。	動く観測者から見た物体の様子を説明できる。斜方投射の様子を鉛直方向と水平方向に分けて説明ができる。力のモーメントの式を理解し、腕の長さが異なるときに働く力のモーメントの考察ができる。剛体の点灯する条件を理解し、説明ができる。運動量と力積の関係の式から物体が受ける力積と平均の力について説明することができる。運動量保存の法則が成り立つ条件を説明できる。反発係数と運動量、力学的エネルギーの関係の説明できる。等速円運動の中心方向の運動方程式から物体の運動を考察することができる。慣性力とその他の力の違いを説明ができる。単振り子と周期の公式を用いて重力加速度が異なる場所での運動の様子を説明できる。万有引力の公式を用いて異なる惑星での重力加速度の大きさを比較することができる。			○		
平面運動する物体の速度や加速度、相対速度などの表し方について学ぶ意味を理解しようとしている。落体の運動特に水平投射、斜方投射について物体の運動はどのようなになっているか理解できるようにする。剛体のつり合いは併進運動のつり合いと回転運動のつり合いが必要なことを理解できるようにする。剛体が傾く条件や転倒する条件を理解できるようにする。物体の運動について運動量と力積を用いて理解できるようにする。弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解できるようにする。等速円運動する物体にはどのような力が働いているか理解できるようにする。慣性力の働く方向を調べる実験等に主体的に取り組むようにする。単振動の速度や加速度がどのように変化するかを理解できるようにする。惑星や人工衛星が万有引力によって運動を続けていることやその運動の様子を理解できるようにする。	平面運動する物体の速度や加速度、相対速度などの表し方について学ぶ意味を理解しようとしている。落体の運動特に水平投射、斜方投射について物体の運動はどのようなになっているか理解しようとしている。剛体のつり合いは併進運動のつり合いと回転運動のつり合いが必要なことを理解しようとしている。剛体が傾く条件や転倒する条件を理解しようとしている。物体の運動について運動量と力積を用いて理解しようとしている。弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解しようとしている。等速円運動する物体にはどのような力が働いているか理解しようとしている。慣性力の働く方向を調べる実験に主体的に取り組んでいる。単振動の速度や加速度がどのように変化するかを理解しようとしている。惑星や人工衛星が万有引力によって運動を続けていることやその運動の様子を理解しようとしている。				○	

B 熱と気体						
<p>気体の圧力を求める式を理解させる。気体が熱運動をして壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができるようにする。単原子分子の理想気体の内部エネルギーについて理解させる。</p>	<p>気体の法則 気体分子の運動 気体の状態変化</p>	<p>気体の圧力を求める式を理解している。気体が熱運動をして壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる。単原子分子の理想気体の内部エネルギーについて理解できている。</p>	○			25
<p>ボイルシャルルの法則を用いて日常に即した問題について考察することができるようにする。平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できるようにする。気体の状態変化と気体がされた仕事について説明ができるようにする。</p>		<p>ボイルシャルルの法則を用いて日常に即した問題について考察することができる。平均運動エネルギーと絶対温度の関係を説明できる。気体の状態変化と気体がされた仕事について説明ができる。</p>		○		
<p>気体の圧力や体積、温度を変えるときこれらの量の間どのような関係が成り立っているかを理解させる。気体分子が持っている質量、速度、運動量などのミクロな量と気体の圧力などマクロな量がどのような関係にあるか理解させる。気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようになるのかを理解させる。</p>		<p>気体の圧力や体積、温度を変えるときこれらの量の間どのような関係が成り立っているかを理解しようとしている。気体分子が持っている質量、速度、運動量などのミクロな量と気体の圧力などマクロな量がどのような関係にあるか理解しようとしている。気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようになるのかを理解しようとしている。</p>			○	

<p>C 波動</p> <p>波が伝わる様子をグラフで表すことができるようにする。位相のずれや進行方向の違いなども考慮して正弦波の式を正しく表すことができるようにする。定常波が生じる仕組みを理解させる。音の干渉について音が強め合う条件と弱め合う条件を理解させる。ドップラー効果の式を用いて観測者の聞く音の振動数を求めることができるようにする。屈折の法則を用いてガラスの屈折率を測定できるようにする。レンズと鏡によって生じる像を作図によって求められるようにする。ヤングの実験、回折格子、薄膜、楔形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉</p> <p>波と波動の運動 正弦波の式 波の伝わり方 音の伝わり方 音のドップラー効果 光の性質 レンズと鏡 光の干渉と回折</p> <p>光が媒質の境界面で屈折する様子の図からどちらの媒質の方が光の進む速さが早いかに判断できるようにする。凸レンズによりスクリーン上に実像ができるとき、レンズの上半分を覆うと像がどうなるかを説明できるようにする。回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の違を考慮できるようにする。</p> <p>光が関係する現象に興味を持ち、光に関する基本的事項と光の進み方について理解させる。レンズや鏡に興味を持ち、それによってどのような像ができるか理解させる。ヤングの実験や回折格子による光の干渉実験に主体帝に取り組ませる。</p>	<p>波が伝わる様子をグラフで表すことができる。位相のずれや進行方向の違いなども考慮して正弦波の式を正しく表すことができる。定常波が生じる仕組みを理解している。音の干渉について音が強め合う条件と弱め合う条件を理解している。ドップラー効果の式を用いて観測者の聞く音の振動数を求めることができる。屈折の法則を用いてガラスの屈折率を測定できる。レンズと鏡によって生じる像を作図によって求められる。ヤングの実験、回折格子、薄膜、楔形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解している。</p> <p>光が媒質の境界面で屈折する様子の図からどちらの媒質の方が光の進む速さが早いかに判断できる。凸レンズによりスクリーン上に実像ができるとき、レンズの上半分を覆うと像がどうなるかを説明できる。回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の違を考慮することができる。</p> <p>光が関係する現象に興味を持ち、光に関する基本的事項と光の進み方について理解しようとしている。レンズや鏡に興味を持ち、それによってどのような像ができるか理解しようとしている。ヤングの実験や回折格子による光の干渉実験に主体帝に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>25</p>
<p>D 電気と磁気</p> <p>静電気の帯電の仕組み、殿下の持つ電気量について正しく理解させる。電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく用いることができるようにする。電位について理解し、様々な関係式を正しく用いることができるようにする。コンデンサーの基本公式を正しく適用できるようにする。オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できるようにする。抵抗の直列接続、並列接続を正しく理解させる。磁気量についてクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを理解させる。直線電流、円形電流、ソレノイドの電流が作る磁場について理解させる。フレミングの左手の法則について理解させる。ローレンツ力について理解させる。</p> <p>静電気力 電場 電位 物質と電場 コンデンサー オームの法則 直流回路 半導体 磁場 電流のつくる磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力 電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導 交流の発生 交流回路 電磁波</p> <p>電荷間の距離と働く静電気力との関係を説明できるようにする。点電荷のつくる電場の強さが何に関係するかを説明できるようにする。電気力線と等電位電位線の関係について説明できるようにする。電場中に置いた導体内部の電場と電位がどのようになるかを説明できるようにする。平行板コンデンサーの充電のメカニズムを説明できるようにする。電圧降下とはどのようなことかを説明できるようにする。電池の起電力や内部抵抗について説明できるようにする。半導体ダイオードの整流作用について説明できるようにする。直線電流や円形電流が作る磁場について説明できるようにする。フレミングの左手の法則を用いて電流の流れている導線がどの向きに力を受けるかを判断することができるようにする。磁場中を運動する荷電粒子の運動について説明ができるようにする。</p>	<p>静電気力の帯電の仕組み、電荷の持つ電気量について正しく理解している。電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく用いることができる。電位について理解し、様々な関係式を正しく用いることができる。コンデンサーの基本公式を正しく適用できる。オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できる。抵抗の直列接続、並列接続を正しく理解している。磁気量についてクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを理解している。直線電流、円形電流、ソレノイドの電流が作る磁場について理解している。フレミングの左手の法則について理解している。ローレンツ力について理解している。</p> <p>電荷間の距離と働く静電気力との関係を説明できる。点電荷のつくる電場の強さが何に関係するかを説明できる。電気力線と等電位電位線の関係について説明できる。電場中に置いた導体内部の電場と電位がどのようになるかを説明できる。平行板コンデンサーの充電のメカニズムを説明できる。電圧降下とはどのようなことかを説明できる。電池の起電力や内部抵抗について説明できる。半導体ダイオードの整流作用について説明できる。直線電流や円形電流が作る磁場について説明できる。フレミングの左手の法則を用いて電流の流れている導線がどの向きに力を受けるかを判断することができる。磁場中を運動する荷電粒子の運動について説明ができる。</p>	<p>○</p> <p>○</p>	<p>35</p>

<p>電氣的な力が及ぶ空間である電場について興味・関心を持たせる。電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解できるようにする。コンデンサーの性質を理解すべく、実験に主体的に取り組ませる。電流の流れ方は物質の種類やつなぎ方によってどのように異なるかということに興味を持たせる。電気回路に流れる電流や加わる電圧の測定や考察に主体的に取り組ませる。直線電流によって生じる磁場の向きを観察でき、実験に主体的に取り組ませる。電流が磁場から受ける力を観察でき、実験に主体的に取り組ませる。</p>		<p>電氣的な力が及ぶ空間である電場について興味・関心を示している。電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解しようとしている。コンデンサーの性質を理解すべく、実験に主体的に取り組んでいる。電流の流れ方は物質の種類やつなぎ方によってどのように異なるかということに興味を持っている。電気回路に流れる電流や加わる電圧の測定や考察に主体的に取り組んでいる。直線電流によって生じる磁場の向きを観察でき、実験に主体的に取り組んでいる。電流が磁場から受ける力を観察でき、実験に主体的に取り組んでいる。</p>			○	
<p>E 原子</p> <p>光電効果について理解させる。X線の性質、特徴について理解させる。ボーアの理論について理解させる。同位体について理解させる。放射崩壊によって原子核がどのように変化するか理解させる。半減期について理解させる。核反応を式に表すことができるようにする。核分裂反応、核融合反応について理解させる。</p> <p>電子のエネルギー準位について理解し、説明できるようにする。原子核の構成から同位体どうしの相違点について説明できるようにする。アルファ線、ベータ線、ガンマ線の正体や、アルファ崩壊、ベータ崩壊の仕組みを説明できるようにする。核反応の前後で原子核の質量の輪が減少するとき、その質量差に相当するエネルギーが核エネルギーとして開放されることを定量的に説明できるようにする。</p> <p>光が粒子性を持つことに興味・関心を示し、光電効果の原理などを理解できるようにする。放射線と放射性物質ではどのように意味が異なるのか興味関心を示し、放射線とその性質について理解できるようにする。核エネルギーとは何か、なぜ莫大なエネルギーが取り出せるのかに興味・関心を示し、理解できるようにする。</p>	<p>電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性 原子の構造とエネルギー準位 原子核 放射線とその性質 核反応と核エネルギー 素粒子 物理学が築く未来</p>	<p>光電効果について理解している。X線の性質、特徴について理解している。ボーアの理論について理解している。同位体について理解している。放射崩壊によって原子核がどのように変化するか理解している。半減期について理解している。核反応を式に表すことができる。核分裂反応、核融合反応について理解している。</p> <p>電子のエネルギー準位について理解し、説明できる。原子核の構成から同位体どうしの相違点について説明できる。アルファ線、ベータ線、ガンマ線の正体や、アルファ崩壊、ベータ崩壊の仕組みを説明できる。核反応の前後で原子核の質量の輪が減少するとき、その質量差に相当するエネルギーが核エネルギーとして開放されることを定量的に説明できる。</p> <p>光が粒子性を持つことに興味・関心を示し、光電効果の原理などを理解しようとしている。放射線と放射性物質ではどのように意味が異なるのか興味関心を示し、放射線とその性質について理解しようとしている。核エネルギーとは何か、なぜ莫大なエネルギーが取り出せるのかに興味・関心を示し、理解しようとしている。</p>	○	○	○	15

高等学校 令和6年度 教科

理科 科目 物理演習

教科：理科 科目：物理演習

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 A組～ B組

教科担当者：

使用教科書：（数研 物理706 物理）

教科 理科 の目標：物理的なものの見方・考え方を身につけると同時に、より高い科学的自然観を育成する。

【知識及び技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物・現象から問題を見だし、見直しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
学習した物理の基本的な概念や原理・法則が正しく理解できるようにする。学習した概念や原理・法則をその学習や生活の中で新しい自傷の解釈に応用できるようにする。	課題を遂行するにあたって、科学的・論理的に思考し、判断できるようにする。課題の設定理由、研究過程、結果及びそこから導き出した自らの考えを的確かつ簡潔にわかりやすく相手に伝えられるようにする。	物理的な事物・現象に対して主体的にかかわり、理解できるようにする。物理的な事物・現象に対する気づきから課題を設定し解決できる態度を身に付けさせる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数
A 力と運動	平面運動の速度加速度 落体の運動 剛体に働く力のつり合い 剛体に働く力の合力と重心 運動量と力積 運動量保存の法則 反発係数 等速円運動 慣性力 単振動 万有引力	水平投射や水平投射の計算ができる。力のモーメントについて理解し、剛体に働く複数の力の合力を求めることができる。運動量と力積について計算ができる。反発係数の式を用いて衝突する物体の運動の計算をできるようにする。等速円運動する物体の回転速度、角速度、周期、回転数などの計算ができる。慣性力を含めたつり合いの式を立てることができるようにする。単振動の変位、速度、加速度を計算により求めることができるようにする。				20
動く観測者から見た物体の様子を計算によって求めることができるようにする。斜方投射の様子を鉛直方向と水平方向に分けて計算ができるようにする。力のモーメントの計算ができるようにする。剛体の点灯する条件を理解し、計算ができるようにする。運動量と力積の関係の式から物体が受ける力積と平均の力について計算ができるようにする。運動量保存の法則と反発係数から衝突後の速度を計算できるようにする。単振り子と周期の公式を用いて様々な計算をできるようにする。	動く観測者から見た物体の様子を計算で求めることができる。斜方投射の様子を鉛直方向と水平方向に分けて計算ができる。力のモーメントの計算ができる。剛体の点灯する条件を理解し、計算ができる。運動量と力積の関係の式から物体が受ける力積と平均の力について計算ができる。運動量保存の法則と反発係数から衝突後の速度を計算できる。単振り子と周期の公式を用いて様々な計算をできる。			○		
水平投射、斜方投射について計算ができるようにする。剛体のつり合いは併進運動のつり合いと回転運動のつり合いが必要なことを理解しようとしている。物体の運動について運動量と力積を用いて理解しようとしている。弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解しようとしている。等速円運動する物体にはどのような力が働いているか理解させる。単振動の速度や加速度がどのように変化するかを理解できるようにする。	水平投射、斜方投射について計算ができるようにしようとしている。剛体のつり合いは併進運動のつり合いと回転運動のつり合いが必要なことを理解しようとしている。物体の運動について運動量と力積を用いて理解しようとしている。弾みやすいかどうかを定量的に表すのが反発係数であるということを理解しようとしている。等速円運動する物体にはどのような力が働いているか理解しようとしている。単振動の速度や加速度がどのように変化するかを理解しようとしている。			○		
B 熱と気体	気体の法則 気体分子の運動 気体の状態変化	気体の圧力を求める式を理解・暗記している。気体が熱運動をして壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導くことができる。単原子分子の理想気体の内部エネルギーについて理解できている。				

<p>ボイルシャルルの法則を用いた計算ができるようにする。平均運動エネルギーを絶対温度から計算できるようにする。気体の状態変化と気体がされた仕事について計算ができるようにする。</p>	<p>ボイルシャルルの法則を用いた計算ができる。平均運動エネルギーを絶対温度から計算できる。気体の状態変化と気体がされた仕事について計算ができる。</p>		○		10
<p>気体の圧力や体積、温度を変えるときこれらの量の間どのような関係が成り立っているかを理解させる。気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようなものかを理解させる。</p>	<p>気体の圧力や体積、温度を変えるときこれらの量の間どのような関係が成り立っているかを理解しようとしている。気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようなものかを理解しようとしている。</p>			○	

<p>C 波動</p> <p>波が伝わる様子をグラフで表すことができるようにする。位相のずれや進行方向の違いなども考慮して正弦波の式を正しく表すことができるようにする。ドップラー効果の式が導出される過程を理解し、場面によって用いる公式の違いを理解させる。屈折の法則を理解させる。レンズと鏡によって生じる像を作図できるようにする。ヤングの実験、回折格子、薄膜、楔形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解させる。</p> <p>光が媒質の境界面で屈折する様子の図からどちらの媒質の方が光の進む速さが早いか計算できるようにする。回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の計算をすることができるようにする。</p> <p>光が関係する現象に興味を持ち、光に関する基本的事項と光の進み方について理解させる。レンズや鏡に興味を持ち、それによってどのような像ができるか理解させる。</p>	<p>波と波動の運動 正弦波の式 波の伝わり方 音の伝わり方 音のドップラー効果 光の性質 レンズと鏡 光の干渉と回折</p>	<p>波が伝わる様子をグラフで表すことができる。位相のずれや進行方向の違いなども考慮して正弦波の式を正しく表すことができる。ドップラー効果の式が導出される過程を理解し、場面によって用いる公式の違いを理解している。屈折の法則を理解している。レンズと鏡によって生じる像を作図できる。ヤングの実験、回折格子、薄膜、楔形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解している。</p> <p>光が媒質の境界面で屈折する様子の図からどちらの媒質の方が光の進む速さが早いか計算できる。回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の計算をすることができる。</p> <p>光が関係する現象に興味を持ち、光に関する基本的事項と光の進み方について理解しようとしている。レンズや鏡に興味を持ち、それによってどのような像ができるか理解しようとしている。</p>	○			10
<p>D 電気と磁気</p> <p>静電気の帯電の仕組み、電荷の持つ電気量について正しく理解させる。電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく用いることができるようにする。電位について理解し、様々な関係式を正しく用いることができるようにする。コンデンサーの基本公式を正しく適用できるようにする。オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できるようにする。抵抗の直列接続、並列接続を正しく理解させる。磁気量についてクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを理解させる。直線電流、円形電流、ソレノイドの電流が作る磁場について理解させる。フレミングの左手の法則について理解させる。</p> <p>電荷間の距離と働く静電気力との関係を基に計算をすることができるようにする。点電荷のつくる電場の強さの計算ができるようにする。平行板コンデンサーに充電される電気量の計算ができるようにする。電圧降下の計算ができるようにする。電池の起電力や内部抵抗について計算ができるようにする。直線電流や円形電流が作る磁場について計算できるようにする。磁場中で電流が受ける力の大きさを計算できるようにする。磁場中を運動する荷電粒子の運動の計算ができるようにする。</p> <p>電氣的な力が及ぶ空間である電場について興味・関心を示させる。電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解させる。</p>	<p>静電気力 電場 電位 物質と電場 コンデンサー オームの法則 直流回路 半導体 磁場 電流のつくる磁場 電流が磁場から受ける力 ローレンツ力 電磁誘導の法則 自己誘導と相互誘導 交流の発生 交流回路 電磁波</p>	<p>静電気の帯電の仕組み、電荷の持つ電気量について正しく理解している。電場とはどのようなものかを理解し、電荷が電場から受ける力や電場の強さの式を正しく用いることができる。電位について理解し、様々な関係式を正しく用いることができる。コンデンサーの基本公式を正しく適用できる。オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できる。抵抗の直列接続、並列接続を正しく理解している。磁気量についてクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを理解している。直線電流、円形電流、ソレノイドの電流が作る磁場について理解している。フレミングの左手の法則について理解している。ローレンツ力について理解している。</p> <p>電荷間の距離と働く静電気力との関係を基に計算をすることができる。点電荷のつくる電場の強さの計算ができる。平行板コンデンサーに充電される電気量の計算ができる。電圧降下の計算ができる。電池の起電力や内部抵抗について計算ができる。直線電流や円形電流が作る磁場について計算できる。磁場中で電流が受ける力の大きさを計算できる。磁場中を運動する荷電粒子の運動の計算ができる。</p> <p>電氣的な力が及ぶ空間である電場について興味・関心を示している。電位について興味・関心を示し、電場と電位の違いについて理解しようとしている。</p>	○		○	20
<p>E 原子</p> <p>光電効果について理解させる。X線の性質、特徴について理解させる。ボーアの理論について理解させる。同位体について理解させる。放射崩壊によって原子核がどのように変化するか理解させる。半減期について理解させる。核反応を式に表すことができるようにする。核分裂反応、核融合反応について理解させる。</p> <p>核反応の前後で原子核の質量の和が減少するとき、放出されるエネルギーの量を計算により求めることができるようにする。</p> <p>光が粒子性を持つことに興味・関心をもたせる。光電効果の原理などを理解させる。核エネルギーとは何か、なぜ莫大なエネルギーが取り出せるのか理解させる。</p>	<p>電子 光の粒子性 X線 粒子の波動性 原子の構造とエネルギー準位 原子核 放射線とその性質 核反応と核エネルギー 素粒子 物理学が築く未来</p>	<p>光電効果について理解している。X線の性質、特徴について理解している。ボーアの理論について理解している。同位体について理解している。放射崩壊によって原子核がどのように変化するか理解している。半減期について理解している。核反応を式に表すことができる。核分裂反応、核融合反応について理解している。</p> <p>核反応の前後で原子核の質量の和が減少するとき、放出されるエネルギーの量を計算により求めることができる。</p> <p>光が粒子性を持つことに興味・関心を示し、光電効果の原理などを理解しようとしている。放射線と放射性物質ではどのように意味が異なるのか興味関心を示し、放射線とその性質について理解しようとしている。核エネルギーとは何か、なぜ莫大なエネルギーが取り出せるのかに興味・関心を示し、理解しようとしている。</p>	○		○	10

教科 : 理科 科目 : 生物
 対象学年組 : 第3学年A組~F組 選択者
 教科担当 :
 使用教科書 : 数研出版 高等学校 生物

教科 理科の目標

- 【知識及び技能】 生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的に学習する態度を見に付けているか。生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生物や生命現象に見られる事象を実証的、論理的に捉えたり、分析的、総合的に考察したり、科学的に考えることができるか。実験・観察の技能を習得するとともに、その過程や結果、およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現できるか。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事象・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を有しているか。

科目 生物の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物基礎で学習した内容を基礎として、生物や生命現象の基本的な原理・原則の理解をさらに深めるとともに、観察・実験を通して科学的な自然観を育てる。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。	生物や生命現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などをを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。	生命現象を分子レベルでとらえるとともに、生物の進化と多様性、分類、環境との関わりについて理解を深めながら、科学的に探究する能力と態度を育てる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知 思 態			配当 時数
			知	思	態	
1 生命の起源と生物の進化 1 生命の起源、生物の変遷と地質時代、人類の進化について理解する。	生命の起源と生物の変遷	「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。				6
2 細胞と分子 2 生体物質、細胞の構造と機能、タンパク質の構造、酵素、輸送、情報伝達、免疫、細胞接着とタンパク質について理解する。	生体物質と細胞 タンパク質と酵素 細胞とタンパク質 代謝とエネルギー	「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。				8
3 代謝 3 呼吸と発酵、炭酸同化、窒素同化について理解する。	【実験】光合成色素の分離 【実験】カタラーゼ 【実験】酵素	「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				12
4 遺伝情報の発現と発生 4 DNAの複製のしくみ、転写とスプライシング、翻訳、突然変異、発現調節のしくみ、遺伝子組換え、PCR法、塩基配列決定法、遺伝子導入などについて理解する。	DNAの構造と複製 遺伝情報の発現 遺伝子の発現調節 バイオテクノロジー 有性生殖 動物の発生 発生のしくみ 植物の発生 進化のしくみ	「遺伝情報の発現と発生」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	○	○	○	8
遺伝子の変化と多様性(突然変異)遺伝子の組合せの変化(減数分裂~連鎖と組み換え)進化の仕組み(遺伝的浮動・自然選択・ハーディワインベルグ・種分化)について理解する。		「遺伝情報の発現と発生」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。				8
発生と遺伝子発現のしくみについて母性因子と体軸決定、誘導と分化のしくみ、調節遺伝子と形態形成を理解する。	【実験】折り紙バード 【実験】遺伝子組換え実験	「遺伝情報の発現と発生」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				8
5 動物の反応と行動 ニューロン、興奮の伝導と伝達、受容器、効果器の反応、中枢神経系のはたらき、動物の行動について理解する。	動物の反応 動物の行動 【実験】フタの脳と眼球の解剖	「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。				12
6 植物の環境応答 植物ホルモン、種子発芽・栄養成長・花芽形成・落葉落果の調節と環境応答について理解する。	植物の環境応答	「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。	○	○	○	12
7 生物群集と生態系 個体群、個体群内の相互作用、個体群間の相互作用、生物群集と共存、物質生産、エネルギーの流れ、生物多様性について理解する。生物の系統と分類について理解する。	個体群と生物群集 生態系の物質生産 生態系と生物多様性 生物の系統	「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				16
全体を振り返り理解度を確認する。	学習のまとめ問題演習	問題演習を通して知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力を測る。	○	○		8

教科 : 理科 科目 : 生物演習
 対象学年組 : 第3学年A組~F組 選択者
 教科担当 :
 使用教科書 : 数研出版 高等学校 生物

教科 理科の目標

- 【知識及び技能】 生物や生命現象に関心や探究心をもち、意欲的に学習する態度を見に付けているか。生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けているか。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生物や生命現象に見られる事象を実証的、論理的に捉えたり、分析的、総合的に考察したり、科学的に考えることができるか。実験・観察の技能を習得するとともに、その過程や結果、およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現できるか。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事象・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を有しているか。

科目 生物の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物基礎で学習した内容を基礎として、生物や生命現象の基本的な原理・原則の理解をさらに深めるとともに、観察・実験を通して科学的な自然観を育てる。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。	生物や生命現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などをを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。	生命現象を分子レベルでとらえるとともに、生物の進化と多様性、分類、環境との関わりについて理解を深めながら、科学的に探究する能力と態度を育てる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知 思 態			配当 時数
			知	思	態	
1 生命の起源と生物の進化 1 生命の起源、生物の変遷と地質時代、人類の進化について理解する。	生命の起源と生物の変遷	「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。				2
2 細胞と分子 2 生体物質、細胞の構造と機能、タンパク質の構造、酵素、輸送、情報伝達、免疫、細胞接着とタンパク質について理解する。	生体物質と細胞 タンパク質と酵素 細胞とタンパク質 代謝とエネルギー	「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。				4
3 代謝 3 呼吸と発酵、炭酸同化、窒素同化について理解する。	【実験】光合成色素の分離 【実験】カタラーゼ 【実験】酵素	「生命の起源と進化」、「細胞と分子」、「代謝」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				6
4 遺伝情報の発現と発生 4 DNAの複製のしくみ、転写とスプライシング、翻訳、突然変異、発現調節のしくみ、遺伝子組換え、PCR法、塩基配列決定法、遺伝子導入などについて理解する。	DNAの構造と複製 遺伝情報の発現 遺伝子の発現調節 バイオテクノロジー 有性生殖 動物の発生 発生のしくみ 植物の発生 進化のしくみ	「遺伝情報の発現と発生」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	○	○	○	2
遺伝子の変化と多様性(突然変異)遺伝子の組合せの変化(減数分裂~連鎖と組み換え)進化の仕組み(遺伝的浮動・自然選択・ハーディワインベルグ・種分化)について理解する。		「遺伝情報の発現と発生」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。				4
発生と遺伝子発現のしくみについて母性因子と体軸決定、誘導と分化のしくみ、調節遺伝子と形態形成を理解する。	【実験】折り紙バード 【実験】遺伝子組換え実験	「遺伝情報の発現と発生」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				2
5 動物の反応と行動 ニューロン、興奮の伝導と伝達、受容器、効果器の反応、中枢神経系のはたらき、動物の行動について理解する。	動物の反応 動物の行動 【実験】フタの脳と眼球の解剖	「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。				6
6 植物の環境応答 植物ホルモン、種子発芽・栄養成長・花芽形成・落葉落果の調節と環境応答について理解する。	植物の環境応答	「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」について観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現している。	○	○	○	6
7 生物群集と生態系 個体群、個体群内の相互作用、個体群間の相互作用、生物群集と共存、物質生産、エネルギーの流れ、生物多様性について理解する。生物の系統と分類について理解する。	個体群と生物群集 生態系の物質生産 生態系と生物多様性 生物の系統	「動物の反応と行動」、「植物の環境応答」、「生物群集と生態系」の授業に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				8
全体を振り返り理解度を確認する。	学習のまとめ問題演習	問題演習を通して知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力を測る。	○	○		4

教科 : 理科 科目 : 発展化学

対象学年組 : 第3学年A組~F組

教科担当 :

使用教科書 : 啓林館 高等学校 化学

教科 理科の目標

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解する。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けるとともに、実験結果に対する考察をじゅうぶん行うようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究する力を養う。観察、実験結果に対する内容を適切に伝達・表現できるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 授業で得た結果をもとに発展的な興味関心をもって自主的活動を行うようにする。科学的に探究し、その成果をいかして社会や生活との関連を考えられる態度を養う。

科目 発展化学の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
観察、実験などを通して、物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	観察、実験の技能を習得するとともに、物質の状態変化とその平衡に関する事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現できる。	化学的な事物・事象のうち、物質の状態変化とその平衡について関心や探究心をもち、意欲的にそれらの理解や探究に取り組むとともに、科学的な自然観を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配 当 時 数
化学基礎 ・化学結合とそれぞれの性質、及び結晶構造を理解させる。 ・結晶の構造を理解させる。・アモルファスの性質を理解させる。 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りを学び、物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解させる。 ・状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解させる。 ・気体の体積と圧力や温度との関係を理解させる。 ・気体定数と状態方程式、分子量の関係を理解させる。 ・溶解の仕組みを理解させること。また、溶解度を溶解平衡と関連づけて理解させる。 ・身近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解させる。 ・コロイド溶液の性質を理解させる。	化学基礎の復習 固体の構造 物質の状態変化 気体の性質 溶液の性質	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	8
						8
						8
						8
・化学反応における熱の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。 ・物質が変化するとき出入りする熱量(反応エンタルピー)は、最初と最後の状態だけで決まり、反応経路には無関係であることを理解させる。 ・化学反応における光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。 ・電池は、酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みであることを理解させる。 ・外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解させる。また、その反応に関与した物質の変化量と電流量との関係について理解させる。 ・反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解させる。 ・化学反応の仕組みを理解させ、反応速度を速める触媒について理解させる。 ・可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解させる。 ・水のイオン積とpH、弱酸や弱塩基の電離平衡、難溶性塩の溶解平衡について理解させる。	化学反応と熱・光エネルギー・電気エネルギー 化学反応と電気エネルギー 反応速度 化学平衡	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	12
						12
						8
・非金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・典型金属元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・遷移元素の単体及び、その化合物の性質を理解させる。 ・金属陽イオンの特定や陰イオンとの反応、分離と確認について理解させる。	無機化合物	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	16
	・有機化合物の特徴と分類を理解させる。 ・元素分析により、組成式・分子式・構造式が決定されることを理解させる。 ・脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連づけて理解させる。 ・不飽和炭化水素、官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応について理解させる。・酸素を含む脂肪族化合物の性質について理解させる。 ・芳香族化合物の性質について理解させる。・有機化合物の性質を利用し、混合溶液の分離が可能であることを理解させる。	有機化合物	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○
・高分子化合物の分類や特徴を理解させる。 ・共通テスト形式の問題に慣れ、深く考えることができる。 ・私立大や国公立2次試験の過去問等に慣れ、深く考えることができる。	高分子化合物 共通テスト対策演習 私立大・国公立2次試験対策演習	【知識・技能】基本的な概念、原理、用語、記号などを理解し身に付けている。 【思考・判断・表現】科学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。 【主体的に学習に取り組む態度】化学のよさを認識しそれらを考察に活用しようとする。	○	○	○	22
			○	○	○	

合計

高等学校 令和6年度(3学年用) 教科 保健体育 科目 スポーツⅡ

教科 : 保健体育 科目 : 体育
 対象学年組 : 第3学年A組～F組
 教科担当 :

使用教科書 : 新高等保健体育(大修館書店)

教科 保健体育の目標

【知識及び技能】 各種目の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 スポーツⅡの目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】				
スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。	スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。				
単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
体づくり運動 (1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解できるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保することができるようにする。	・ニュースポーツ ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	(1)「知識及び技能」 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 体づくり運動、縄跳びに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	○	○	○	16
スポーツⅡ (1)「知識及び技能」 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けられるようにする。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うことができるようにする。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養うことができるようにする。	1・2年生で経験した種目(施設の関係で変更あり)	(1)「知識及び技能」 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身につけている。 (2)「思考力・判断力・表現力等」 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えている。 (3)「学びに向かう力、人間性等」 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度が身につけている。	○	○	○	54

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 芸術 科目 美術Ⅱ

教科：教科 芸術 科目：美術Ⅱ 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 B組～F組

教科担当者：

使用教科書：（美術Ⅱ 38光村 美Ⅱ303）

教科 教科 芸術 の目標：

- 【知識及び技能】素材の特性を知り基本的な道具の使い方を生かした制作技能を身に着ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】対照素材の制作を通し発見した特性を生かし発展させ表現する力を身に着ける。
- 【学びに向かう力、人間性等】作品制作を通し 美術の面白さを認識し美術と向き合い自己を高める力を身に着ける。

科目 美術Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力・判断力・表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている ・創造的な美術の制作をするために必要な技能を身に着け意図に応じて制作方法を創意工夫している	・造形的な美しさや表現の意図と創意工夫について考え発想や構想を練り美術の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めている	・作品制作を通し 美術の伝統と文化に豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ 映	鑑 賞					
1 学 期	円の形独特の構図や構成を学習しそれを生かしたテーマを決め図案を考える。	・デザイン（飾り丸盆）円のデザイン ・線取りの効果の学習 ・参考作品の鑑賞	○		○	・円の形を生かした表現が出来ている ・テーマの独自性 ・アイデアスケッチの熟考度	○	○	○	4
	テーマに沿った主役や登場するもの、場所、季節、時代などを画面全体のバランスを考えながら配置する。	・画面全体のバランスを考えながら実物大の下書きを考える。	○	○	○	・主役や登場物や背景全体の構成力 ・独自性のある発想力	○	○	○	4
	紙やすりで飾り盆の縁のバリを取る。 アクリルジェッソで下塗りを行う 下書きを丸盆に写す。	・飾り盆の縁のバリ取り下塗りを行い清書した下書きを写す。	○	○	○	・行っている作業の効果と意味を理解する。 ・丁寧に作業を積み重ねる。	○	○	○	2
	水彩絵の具での彩色を積み重ね深みを出す	・彩色	○	○	○	・画面全体の配色バランス	○	○	○	10
2 学 期	丸盆裏面の図案を考え、彩色する。 完成した丸盆の表面につや出しニス塗る。	・飾り丸盆の裏面の制作 ・塗装	○	○	○	・おもて面を考慮した図案を考えている。 ・完成に向けて丁寧に作業を積み重ねている。 ・制作態度	○	○	○	4
	アートガラスの制作手順と効果を理解した図案を考える。 ニードルで彩色する部分の黒塗料を削る。	・アートガラスのデザイン（白黒のバランスを考えた図案） ・参考作品鑑賞	○	○	○	・作業手順と効果を理解した図案を考えている ・画面全体の配色バランスが取れている	○	○	○	8
	ニードルで削り終えた白黒のガラス裏面に透明水彩絵の具で薄く彩色する。	・アートガラスの彩色	○	○	○	・作業手順と効果を理解し丁寧に作業している。	○	○	○	10
3 学 期	学習した木彫の彫り方を組み合わせた額縁の図案を考える。	・木彫（アートガラスの額縁制作） ・彫り刀での彫り ・額縁の組み立て	○	○	○	・作品完成に向け全体のバランスを考えながら作業している。 ・額縁の限られた形を生かした木彫の図案を考えている ・制作態度	○	○	○	2
合計										44

高等学校 令和6年度 教科

芸術

科目 音楽Ⅱ

教科：芸術

科目：音楽Ⅱ

単位数：

単位 2

対象学年組：第 3 学年 A 組～ F 組

教科担当者：

使用教科書：（ MOUSA2 （教育芸術社） ）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深める。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したごとと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもち、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴く。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	ピアノ初心者 バイエル ピアノ経験者 保育音楽弾き歌い	ピアノ初心者 バイエルを通し基本的なピアノの奏法を覚える ピアノ経験者 保育音楽の弾き歌いをピアノで行い、より多くの楽曲に触れる	○	○	○	○		○	○	○	26
2 学 期	ピアノ初心者 バイエル ピアノ経験者 保育音楽弾き歌い	ピアノ初心者 バイエルを通し基本的なピアノの奏法を覚える ピアノ経験者 保育音楽の弾き歌いをピアノで行い、より多くの楽曲に触れる	○	○	○	○		○	○	○	28
3 学 期	ピアノ初心者 バイエル ピアノ経験者 保育音楽弾き歌い	ピアノ初心者 バイエルを通し基本的なピアノの奏法を覚える ピアノ経験者 保育音楽の弾き歌いをピアノで行い、より多くの楽曲に触れる	○	○	○			○	○	○	16

【知識及び技能】	英語の音声や語彙・表現、文法、言語の働きなどについて理解を深める力を養う。またそれらを、4技能による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につける力を養う。
【思考力、判断力、表現力等】	場面、状況などに応じて日常的話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝えあったりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】	言語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自発的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする力を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語の文法に関する事項、対話の展開の仕方や論理構成について理解できる。実際のコミュニケーションにおいて、日常的話題や社会的な話題について、基本的な語句や文を用い、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うことができる。聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理構成や展開を工夫して話して伝える技能を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。	目的、場面、状況などに応じて、日常的話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを基本的な語句や文を用いて、論理の構成や展開を工夫して書いて伝えることができる。言語の背景にある文化に対する理解を深め、読み手に配慮しながら主体的に英語の4技能を用いて伝える力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話	発	書					
1 学 期	【単元】 ①Lesson 2 「The Value of Libraries」 ②Lesson 4 「Free Time」 シンプル英作文 第1～3章 Tactics for Listening unit 9～13 共通テストリスニング Lesson 1～3	【題材】 ①図書館の役割 ②家で過ごす時間 【材料】 ①時制、 ②名詞句・名詞節 【言語活動】 ①あいづちで関心を示す。 ②何かをしようと誘う。	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	15
	【単元】 ①Lesson 5 「New Sports and entertainments」 ②Lesson 6 「Enriching Our Lives」 シンプル英作文 第4～7章 Tactics for Listening unit 14～17 共通テストリスニング Lesson 4～6	【題材】 ①スポーツエンタメ ②実生活 【材料】 ①助動詞、 ②形容詞 【言語活動】 ①話を切り出す。 ②感じたことを伝える。	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18
	【単元】 ①Lesson 7 「A Common Concern」 ②Lesson 8 「Maintaining the Ecosystem」 シンプル英作文 第8～9章 Tactics for Listening unit 18～21 共通テストリスニング Lesson 7～9	【題材】 ①懸念事項 ②環境問題 【材料】 ①形容詞句、 ②形容詞節 【言語活動】 ①理由をたずねる。 ②情報をたずねる。	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18
2 学 期	【単元】 ①Lesson 9 「A Sustainable Lifestyle」 ②Lesson 10 「The Envolving Japanese Workforce」 シンプル英作文 第10～11章 Tactics for Listening unit 22～24 共通テストリスニング Lesson 10～11 Final Step Lesson 1～2	【題材】 ①持続可能社会 ②日本の労働 【材料】 ①副詞、 ②副詞句(不定詞 副詞用法)、 その他 演習 【言語活動】 ①共感を求める／共感を表す。 ②相手を励ます。	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18
	【単元】 ①Lesson 11 「Inside Fairtrade」 ②Lesson 12 「Volunteering for Help」 シンプル英作文 第12～13章 Tactics for testing 1～2 共通テストリスニング Lesson 12～13 Final Step Lesson 3～4	【題材】 ①日本を紹介する、 ②イノベーション、 ③多様性を受け入れる社会 【材料】 ①比較、 ②仮定法、 その他 演習 【言語活動】 ①提案する。 ②会話の間をとる。	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18
3 学 期	【単元】 ①Lesson 13 「Trends in Studying Abroad」 シンプル英作文 第14章 Tactics for testing 3～4 共通テストリスニング Lesson 14 Final Step Lesson 5	【題材】 ①留学事情 【材料】 ①無生物主語 【言語活動】 ①感謝の気持ちを表す。 その他 演習	○	○	○	○	○	<知・技> 【材料】で取り上げた文法の意味や働きを理解し適切に用い、【題材】のテーマについて伝え合う技能を身に付ける。 <思・判・表> 【題材】等についての情報を、論理的に詳しく伝えられる。 <主体> 【題材】等についての情報を論理的に詳しく伝え合い、自分の発話を振り返り改善する。	○	○	○	18
											合計	105

高等学校 令和4年度（1学年用）教科 外国語 科目 グローバルイングリッシュ

教科：外国語 科目：グローバルイングリッシュ 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 A組～F組

教科担当者：

使用教科書：（副教材 Uncover 2）

教科 外国語

の目標： グローバルな視点を育み、世界の様々な事象に触れ、自分の言葉で仲間と問題解決するスキルを英語を使って育む。

【知識及び技能】世界の事象をListening, Speaking, Reading, Writingを通して英語で理解し、情報共有をする。

【思考力、判断力、表現力等】4技能5領域を活用して英語の総合力を育む

【学びに向かう力、人間性等】協働活動を通してデジタルテクノロジーを使用し、異文化の学びを実践的に行う。

科目 グローバルイングリッシュ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
スキル：Communication / Using appropriate vocabulary, words and grammar. / Reading the information and share it with mates and Managing conversation.	スキル：Critical Thinking / Synthesizing ideas and information / Selects keypoints from a range of sources to present interesting and coherent information.	スキル：Collaboration / Managing the sharing of tasks in a project / works with others to plan and execute class projects.

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 (<small>や</small>)	話 (<small>発</small>) 書						
1 学 期	A 単元 【知識及び技能】 Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】 Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】 Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と協働で世界の事象について触れる。Unit 1 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○		○	○	○	4
	A 単元 【知識及び技能】 Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】 Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】 Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と協働で世界の事象について触れる。Unit 2 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○		○	○	○	4
	定期考査	presentation, writing with PC	○	○		○		○	○		1
	A 単元 【知識及び技能】 Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】 Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】 Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と協働で世界の事象について触れる。Unit 3 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○		○	○	○	4
	A 単元 【知識及び技能】 Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】 Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】 Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と協働で世界の事象について触れる。Unit 4 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○		○	○	○	4
定期考査	presentation, writing with PC	○	○		○		○	○		1	
2 学 期	A 単元 【知識及び技能】 Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】 Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】 Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と協働で世界の事象について触れる。Unit 5 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○		○	○	○	9
	定期考査	presentation, writing with PC	○	○		○		○	○		1
	A 単元 【知識及び技能】 Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】 Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】 Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と協働で世界の事象について触れる。Unit 6 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○		○	○	○	8
定期考査	presentation, writing with PC	○	○		○		○	○		1	
3 学 期	A 単元 【知識及び技能】 Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】 Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】 Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と協働で世界の事象について触れる。Unit 7 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○		○	○	○	8
	A 単元 【知識及び技能】 Communication skills 【思考力、判断力、表現力等】 Critical thinking skills 【学びに向かう力、人間性等】 Collaboration skills	教材 「Uncover 2」 出版社 Cambridge Univ. Press PCを利用し、仲間と協働で世界の事象について触れる。Unit 8 ・一人1台端末の活用	○	○	○	○		○	○	○	合計 45

年間授業計画

高等学校 令和6年度32学年用) 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅢ

教科: 外国語 科目: 英語コミュニケーションⅢ 単位数: 4 単位

対象学年組: 第 3 学年 A 組~ F 組

教科担当者:

使用教科書: (Crown English CommunicationⅢ SANSEIDO)

教科 外国語 の目標: 世界中の事象を知り様々な考え方に触れることで、自分と異なる考え方や文化を受け入れる。

【知識及び技能】 将来生きて働く「知識・技能」の習得

【思考力、判断力、表現力等】 理解していることをどう使うか、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成

【学びに向かう力、人間性等】 学習したことを人生や社会に生かそうとする人間性等の涵養

科目 英語コミュニケーションⅢ の目標: 各単元のトピックを理解し、自分の言葉で内容を他者に伝えたり発表できるようにする。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
様々なトピックを扱う英文をもとに、知識を英語で習得することができる。Reading listening によるインプットおよび、writing, speaking によるアウトプットの4技能を総合的に育む	教材及び、関連する題材に触れながら、自らの持つ経験や知識などを相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成し、その内容を他者の前で発表したりすることができる。	学習活動や、教材の内容に興味や関心を持ち、自らの将来の目標を見据えながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返ることができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 (発 言)	書					
1 学 期	Lesson 1 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】 言語が思考にもたらす影響について理解し、考えを深める。 【教材】 教科書、オンライン教材、You tube等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○				6
	Lesson 2 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】 手助けを必要とするロボットについて理解して考えを深める。 【教材】 教科書、オンライン教材、You tube等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○				6
	定期考査		○	○		○				1
	Lesson 3 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】 フェイクニュースの危険性と対処法について理解し、考えを深める。 【教材】 教科書、オンライン教材、You tube等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○				6
	Lesson 4 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】 最先端義足の開発者ヒューハー氏の活動について理解して考えを深める。 【教材】 インターネット等 【一人1台端末の活用 等】	○	○	○	○				6
定期考査		○	○		○				1	
2 学 期	Lesson 5 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】 先延ばし癖の克服方法について理解して考えを深める。 【教材】 教科書、オンライン教材、You tube等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○				6
	Lesson 6 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】 家電・電子ごみ問題、企業戦略と消費者運動について理解して考えを深める。 【教材】 教科書、オンライン教材、You tube等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○				6
	定期考査		○	○		○				1
	Lesson 7 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】 武装解除に携わる瀬谷ルミ子氏の活動について理解して考えを深める。 【教材】 教科書、オンライン教材、You tube等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○				6
	Lesson 8 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】 スーパークローン文化財や美術品の補修と複製について理解して考えを深める。 【教材】 教科書、オンライン教材、You tube等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○				6
定期考査		○	○		○				1	
3 学 期	Lesson 9 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】 動物の文化について理解して考えを深める。 【教材】 インターネット等 【一人1台端末の活用 等】	○	○	○	○				6
	Lesson 10 【知識及び技能】 【思考力、判断力、表現力等】 【学びに向かう力、人間性等】	【指導事項】 裕福さと思いやりの関係、経済的不平等への対処について理解して考えを深める。 【教材】 教科書、オンライン教材、You tube等 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	○				6
	定期考査		○	○		○				1

教科 家庭 科目 保育基礎
 対象学年組 第3年必修選択（B2群） A組～F組中の選択者
 教科担当者
 使用教科書 家庭706 保育基礎 よこそ、ともに育ち合う保育の世界へ（教育図書）
 副教材 使用しない

単位数 2単位

家庭科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識及び技能】 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に資する実践的な態度を養う。
保育基礎の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 【知識及び技能】 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	月	時数	学習内容	学習目標と活動	知	思	主	評価基準例	評価方法例		
1 学期	4 月	2	口絵 子どもにかかわる職業を知ろう！	・子どもにかかわる職業にはどのようなものがあるか、また、その意義を知る。 ・自分が将来どのような形で子どもにかかわりたいか考える。	●	●	●	・さまざまな職業が子どもや保育に直接的・間接的にかかわっており、子どもの健やかな発達に寄与していることを理解している。 ・自分の将来における子どもへのかわりについて、職業や、かわる内容などを具体的に考えられる。 ・子どもにかかわる職業について関心をもち、自身が希望する職業に就くために必要なことを調べるなど、情報を収集・整理しようとしている。	・レポート ・ワークシート		
										●	●
	4 月	1	★1学期に実習協力園で適宜見学を入れ、2学期に発表実習を行う。 ① 保育の意義	1 保育とは何か	★保育園見学実習 保育園見学を通して子どもの発達と保育について総合的に学び、保育にかかわる仕事への職業観を育成する。	●	●	●	・子どもの人格形成における保育の重要性を理解している。 ・保育における保護者や保育者の役割を理解している。	・レポート ・ワークシート ・準備ノート ・定期テスト	
				2 育ての心	・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。 ・保育者のあるべき姿とはどのようなものかを考える。	●	●	●	・子どもの保育の特徴や、保育者に求められる姿勢などについて要点をまとめることができる。 ・保育の意義について、自分自身が親や保育者になることを考えるなど、自分の人生観と結びつけて考えようという姿勢が見られる。		
				② 保育の環境	1 子どもが育つ環境	・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。 ・現代の子どもや子育てで家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。	●	●	●		・家庭での養育と集団保育の役割を理解している。 ・家庭での子育ての現状と課題、国の子育て支援の内容などについて理解している。 ・保育所や幼稚園、認定こども園における保育・教育の特徴を理解している。
					2 家庭での養育						
					3 さまざまな保育の場						
	4 保育ニーズの高まりと課題										
	5 集団保育の重要性										
	5 月	2	③ 保育の方法	1 保育の方法の基本	・子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを知る。 ・保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べ、子どもの発達における保育・教育の目的や目標について理解する。 ・発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。	●	●	●	・保育の目標と、保育者から子どもへのはたらきかけの重要性を理解している。 ・月齢・年齢に応じた保育者の適切なかわり方を理解している。 ・保育所保育指針などが目標とする子どもの育ちを支えるために、保育者としてどのようなことが大切か、自分の考えをもち、話し合うことができる。 ・月齢・年齢に応じた適切なかわり方として、具体的な声かけなどの内容を考えられる。	・レポート ・ワークシート ・グループ活動 ・発表	
				2 子どもの発達と保育	・子どもの健やかな発達のために、保育者として適切な保育環境をどのように工夫していくべきかを考える。 ・子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。	●	●	●	・家庭での養育の課題を考察しながら、子どもの心身の安定を図るために、保育者としての月齢・年齢に応じた適切なかわり方を具体的に考え、意見をまとめたり発表したりすることができる。 ・自身が保育者になることを想像しながら、子どもにとって適切な保育を行うためにかわり方を工夫するなど、積極的に取り組む姿勢が見られる。		
	6 月	1	① 子どもの発達の特性	1 発達とは何か	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・発達には順序性・連続性・方向性・相互性という一定の共通性がある一方で、個人差が大きいことを理解する。 ・子どもが主体的に環境にはたらきかけ、発達していくために、保育者などが応答的にかかわることが大切であることを理解する。	●	●	●	・子どもの発達の共通性・個性について理解している。 ・子どもの発達は、身体と心や身体機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。 ・子どもの心身の発達のために、保育の環境が重要であることを理解している。	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト	
				2 乳幼児期の大切さ							
				3 発達の共通性							
				4 発達の個人差							
5 発達と環境											
6 月	2	② 乳幼児の発育と発達	1 乳幼児期の発育	・乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の発育の特性を理解する。 ・乳幼児期の生理的特徴について理解する。 ・乳児期・幼児期における感覚・運動機能、情緒、認知機能、言語、社会性の発達の特徴について理解する。 ・子どもと大人ではものとのらえ方に違いがあることを知る。 ・愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。また、家族・きょうだい・友だちなどの対人関係と社会性の発達について考える。	●	●	●	・乳幼児の発育や生理的特徴が大人とは大きく異なることを理解している。 ・発達の各側面における過程を理解している。 ・発達の過程で子どもができるようになることを、月齢や年齢に応じて挙げる事ができる。 ・情緒や社会性といった心の発達に関して、親や保育者との愛着形成が重要であることを理解している。			
			2 乳幼児期の生理的特徴								
			3 乳幼児期の発達の特性								
7 月	1	③ 子どもの健康と生活	発達個人差を大事にした保育って？	・乳幼児期の子どもは健全な心身の発達について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・子どもの発達個人差に配慮しながら、心身の発達を促すために保育者としてどのように接するとよいかを考える。	●	●	●	・月齢・年齢ごとの子どもの心身の発達の様子を理解した上で、子どもの個人差を考慮した適切なかわり方を考察し、具体的に提案することができる。 ・自身が保育者になることを想像しながら、子どもの心身の発達を促し、子どもの気持ちに寄り添うにはどうかわるべきかなど、主体的に捉えようとしている。	・レポート ・グループ活動 ・発表		
			1 子どもの養護	・保育所保育指針などを取り上げながら養護の必要性・目的を理解し、発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・子どもを安全に養護するためのポイントや、注意点について知る。 ・基本的生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し、その具体的な内容について知る。 ・生活習慣を題材にした絵本などから、生活習慣の習得を促すにはどのような工夫が必要かを考える。	●	●	●	・子どもの養護の必要性について理解し、その発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身に付けている。 ・子どもの日常生活における世話の仕方とその役割について理解している。 ・生活習慣を題材にした絵本などから、生活習慣の習得を促すための、保育者としての具体的なかわり方などを考察し、工夫することができる。			
7 月	4	④ 子どもの食事	1 栄養と食生活	・子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。 ・食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な役割をもつことを認識する。 ・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているかを考察する。 ・幼児食実習や幼児用おやつづくりなど、実習を通じて子どもをイメージする。	●	●	●	・乳幼児期の食生活の特徴や、発達に必要なエネルギー・栄養素などについて理解している。 ・子どもの食生活の特徴に合った料理の作り方を理解し、基礎的な技術を身に付けている。 ・現代の子どもの食生活の変化について、健康や生活習慣に関する課題を見つけ、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 ・料理を作る際に、食べやすさや栄養素のバランス、アレルギーに配慮するなど、工夫することができる。	・レポート ・実習レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト		
			2 乳児の食事								
			3 離乳								
			4 幼児の食事								
8 月	10	◆調理実習	●調理実習	・保育施設で行われている食育活動などに関心をもち、地域での子どもの食生活にかかわる取り組みについて主体的に情報を収集しようとしている。 ・調理に関心をもち、調理実習に積極的に参加している。	●	●	●	・保育実習において、子どもの発達や生活の特徴を調査・観察し、まとめたり発表したりすることができる。 ・保育実習において、子どもの発達段階や生活の特徴を意識しながら、積極的に子どもとかわらうとしている。	・実習レポート ・グループ活動 ・発表		
			●調理実習								

2 学期	9・10 月	3 章 子どもの生活	③ 子どもの衣服と寝具	1 子どもの衣服の役割	・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画ができるようになる。 ・衣服の選択を間違えると、思わぬ事故につながる可能性があることと知り、安全な衣生活について考えることができる。 ・適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。	●	・乳幼児の発達や生活の特徴から、適切な衣服・寝具の状態について理解する。 ・子どもの衣生活を支える着替えや衣服づくりの仕方を理解し、基礎的な技術を身につけている。	●	・子どもが快適で安全な衣生活を送るために、衣服選びや着せ方をどう工夫するべきかなど、自分の考えをまとめて発表したりすることができる。 ・衣服を作る際に、子どもの生活のしやすさや安全性について考慮し、工夫することができる。	●	・子どもの着替えやおむつ替えなどをやる際にどのようにかわるかなど、自分が保育者や親になったときを想像し、自分ごととして捉えようとしている。 ・被服制作に関心をもち、被服実習に積極的に参加している。	●	・レポート ・実習レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト			
				2 子どもの衣服の選び方												
				3 子どもの衣服の調節												
				4 おむつ												
				5 子どもの寝具など												
	2	◆被服実習														
	5	4 章 子どもの健康と安全	1 保育者の役割	★リトミック体験実習⇒乳幼児を対象とした音楽教育の指導法「リトミック」を生徒が体験することにより、より実践的な保育技術の知見を広げさせる。乳幼児への表現教育について考えさせる。	●	・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。	●	・子どもの健康が免疫力や衛生環境など多様な要因から影響を受けやすく、健康を守る上での保育者の役割が重要であることを理解している。 ・子どもの病気の特徴を知り、適切な看護の方法を理解している。 ・予防接種をはじめとする子どもの病気の予防方法について理解している。 ・家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。	●	・子どもが健康で安全な衣生活を送るために、衣服選びや着せ方をどう工夫するべきかなど、自分の考えをまとめて発表したりすることができる。 ・衣服を作る際に、子どもの生活のしやすさや安全性について考慮し、工夫することができる。	●	・子どもの着替えやおむつ替えなどをやる際にどのようにかわるかなど、自分が保育者や親になったときを想像し、自分ごととして捉えようとしている。 ・被服制作に関心をもち、被服実習に積極的に参加している。	●	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト		
			2 子どもの病気の特徴													
			3 子どものおもな病気													
			4 病気の子どもの看護の方法													
5 病気の予防																
6 子どもの安全																
7 子どもの成長と遊びのなかの危険																
8 応急処置と救急用品																
1	章末 保育の課題に取り組もう！③ 保育施設での危険をどう防ぐ？	・子どもの健康と安全について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・保育施設で起こりうる危険について理解し、保育者として子どもの健康・安全を守るために具体的にどのような対策を取るべきか考える。	●	・保育施設で起こりうる事故について、子どもの発達過程や生活の特徴を踏まえながら考察し、子どもを危険から守るための具体的な方策を提案することができる。	●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちの自由な生活を確保しつつ事故を防ぐにはどうしたらよいかなど、自分ごととして課題に取り組もうとしている。	●	・レポート ・グループ活動 ・発表								
11 月	4 章 子どもの福祉	① 保育にみる児童観	1 大人の意のままになる存在	・子どもが保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知る。 ・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 ・子どもの福祉の理念について理解し、歴史的な経緯を知る。 ・児童福祉法や児童福祉関連施設の概要とその役割について理解する。	●	・世界・日本の児童観や子どもの福祉の変遷の歴史が、現代のさまざまな法律や制度に生かされていることを理解している。 ・児童福祉の理念と特徴、法律や制度、福祉にかかわる施設の役割について理解している。	●	・児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめて発表したりすることができる。	●	・すべての子どもが充実した保育を受けられるように、保育者としてできることを、個々の家庭の事情などにも配慮しながら具体的に考え、提案することができる。	●	・レポート ・ワークシート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト				
			2 「子ども」の発見													
		② 児童福祉の理念と法規・制度	1 児童福祉の歴史													
2 児童福祉の法律																
3 児童福祉にかかわる施設																
1	章末 保育の課題に取り組もう！④ すべての子どもに充実した保育を！	・子どもの福祉について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・障がいの有無や貧困・虐待、国籍の違いなど、多様な事情・背景をもつ家庭や子どもたちが十分な保育サービスを受けるために必要な施策を考える。	●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもや保護者を支えることを目標にして積極的に支援策を考えようとしている。 ・保育施設と行政などが連携した子育て支援について関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。	●	・レポート ・グループ活動 ・発表										
12 月	5 章 子どもの文化	① 子どもの文化の意義	1 子どもの文化とは	・子どもの文化やそれを支える場が、子どもの健康で豊かな生活の実現のために果たす役割や意義を理解する。 ・近年の少子化、高度情報化の影響で、子どもや子ども文化を取り巻く環境に変化が起きていることを知り、それに伴う課題を理解する。	●	・子どもの文化やそれを支える場の役割や意義を理解している。	●	・子どもの文化の現状を捉え、今後の課題について考察することができる。	●	・子どもの健やかな発達が遊びによってもたらされることを理解している。 ・おもちゃ作りなどの活動を通して、子どもの遊びの特徴や、保育者としての適切なかわり方を捉えている。	●	・レポート ・ワークシート ・小テスト ・準備ノート ・定期テスト				
			2 子どもの文化の現状													
		② 子どもの文化を支える場	1 児童文化施設													
			2 その他の施設													
		3	③ 子どもと遊び	1 遊びの意義	・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を、おもちゃづくりなどの活動を通して理解する。 ・子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間などが、近年の社会の変化の影響を受けて変容していることを知り、どのような課題があるか考える。 ・子どもの遊びに対する、保育者としての適切なかわり方を理解する。	●	・おもちゃづくりなどの活動を通して、子どもが楽しく安全に遊ぶことができるように工夫することができる。 ・現代の子どもの遊びを取り巻く現状を理解し、課題について考察することができる。	●	・身近な地域の遊びについて関心をもち、公園などの利用状況や、遊び場を支えるNPO法人などの活動について積極的に調べようとしている。	●	・年齢・年齢ごとの子どもの遊びの特徴を理解した上で、心身の発達を促すために、適切な遊びを企画し、発表することができる。	●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちが楽しめるように積極的に取り組もうとしている。 ・保育施設で行われている遊びに関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。	●	・レポート ・グループ活動 ・発表	
				2 遊びの種類と発達												
3 遊びと遊具のかかわり																
4 遊びの現状																
3 学期	1 月	④ 子どもの表現活動	1 子どもの表現活動の意義	・子どもの表現活動によって培われる能力について知り、表現活動の重要性や意義を理解する。 ・表現活動で子どもの意欲を引き出し、心身を育むための、保育者としての適切なかわり方を理解する。	●	・表現活動において、子どもの意欲を引き出すために保育者はどのようにかわるとよいか、自分の考えをまとめて発表したりすることができる。	●	・保育施設で行われている表現活動に関心をもち、積極的に体験しようとしている。	●	・月齢・年齢ごとの子どもの遊びの特徴を理解した上で、心身の発達を促すために、適切な遊びを企画し、発表することができる。	●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちが楽しめるように積極的に取り組もうとしている。 ・保育施設で行われている遊びに関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。	●	・レポート ・グループ活動 ・発表		
			2 造形表現活動													
			3 言語表現活動													
			4 音楽・身体表現活動													
			5 情報手段などを活用した表現活動													
1	章末 保育の課題に取り組もう！⑤ 目的に合った遊びを考えよう！	・子どもの遊びについての課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 ・年齢に応じた子どもの発達を促すことに適した、具体的な遊び方を提案する。	●	・月齢・年齢ごとの子どもの遊びの特徴を理解した上で、心身の発達を促すために、適切な遊びを企画し、発表することができる。	●	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちが楽しめるように積極的に取り組もうとしている。 ・保育施設で行われている遊びに関心をもち、自分で情報を収集しようとしている。	●	・レポート ・グループ活動 ・発表								
適宜	1	まとめ 保育の学習をふり返ろう		・保育の学習を通じて自分自身の子どもや保育に関する考えがどう変わったか振り返り、成長を実感する。	●	・これまで学習してきた内容を振り返り、保育にかかわる内容をまとめることができる。 ・子どもや保育について、学習前後の自身の考えの変化などをまとめることができる。 ・各章で提示されたSDGsの目標を達成するために、自分自身や社会はどのようなことができるか、話し合ったり、発表したりすることができる。	●	・これまで学習してきた内容を踏まえ、将来自分がどのような形で子どもにかかわっていくかをイメージしようとしている。	●	・表現活動について、保育者として適切にかかわるための基礎的な技術を身につけている。 ・看護について、保育者として適切にかかわるための基礎的な技術を身につけている。	●	・表現活動において、子どもの情緒や社会性などを育むことができるように、演じ方や制作方法などを工夫している。 ・看護において、子どもの安全や心の状態に十分配慮し、かわり方を工夫している。	●	・保育の技術に関心をもち、将来の職業を見据えながら、子どもの表現活動や健康・安全などについての理解を深めようとしている。	●	・実習レポート ・グループ活動 ・発表
				・子どもの表現活動についての理解を深め、適切にかかわるための技術を身につける。 ・子どもの看護についての理解を深め、健康・安全を守るための技術を身につける。 ★全国高等学校家庭科保育技術検定の内容を知る。	●	・表現活動において、子どもの情緒や社会性などを育むことができるように、演じ方や制作方法などを工夫している。 ・看護において、子どもの安全や心の状態に十分配慮し、かわり方を工夫している。	●	・保育の技術に関心をもち、将来の職業を見据えながら、子どもの表現活動や健康・安全などについての理解を深めようとしている。	●	・実習レポート ・グループ活動 ・発表						
計	70															

学習の 評価	知識・技能	・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。 ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。
		・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。

四	趣旨	主体的に学習に取り組む態度	・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。
---	----	---------------	--

教科 : 情報 科目 : 情報Ⅱ

対象学年組 : 第3学年A組~F組

教科担当 :

使用教科書 : 実教出版『情報Ⅱ』

教科	情報	科目	情報Ⅱ	単位数	2単位
学級		教科書	(7実教 情Ⅱ702) 情報Ⅱ		
		副教材	情報Ⅱ 学習ノート(実教出版)、大学入学共通テスト準備 情報Ⅰ 演習問題集(数研出版)		
教科の目標	情報科は、他の教科等の学びとあわせて、このような変化する社会で子供達が生きていくための資質・能力を育むものでなければならない。情報科では、情報に関する科学的な見方・考え方を重視するとともに、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身に付け、実際に活用する力を養うとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養うことを目指している。				
科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決を行う学習活動を通じて、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、創造的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養う。				

評価の観点	知識及び技能:(知技)	思考力・判断力・表現力等:(思表判)	主体的に学習に取り組む態度:(学態)
観点の趣旨	情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。	様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること。	情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に起用しようとする態度を身に付けていること。

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			主な評価規準(評価の材料等)	予定時数	
			知技	思表判	学態			
4 7	オリエンテーション	授業計画について 評価について 既習事項の確認			○		1	
	情報技術が社会に及ぼす影響	・影響について理解する	○	○	○	・影響について理解しているか	1	
	情報のデジタル表現	・デジタル表現について理解する	○	○	○	・デジタル表現について理解しているか	1	
	コミュニケーション手段の発展と特徴	コミュニケーション手段について理解する	○	○	○	・コミュニケーション手段について理解しているか	1	
	情報デザイン	情報デザインについて理解する	○	○	○	・情報デザインについて理解しているか	1	
	コンピュータの仕組み1	コンピュータの仕組みについて理解する	○	○	○	・コンピュータの仕組みについて理解しているか	1	
	コンピュータの仕組み2		○	○	○		1	
	プログラミング	プログラミングについて理解する	○	○	○	・プログラミングについて理解しているか	1	
	モデル化とシミュレーション1	モデル化とシミュレーションについて理解する	○	○	○	・モデル化とシミュレーションについて理解しているか	1	
	モデル化とシミュレーション2		○	○	○		1	
	ネットワークの仕組み1	ネットワークの仕組みについて理解する	○	○	○	・ネットワークの仕組みについて理解しているか	1	
	ネットワークの仕組み2		○	○	○		1	
	データベース1	データベースについて理解する	○	○	○	・データベースについて理解しているか	1	
	データベース2		○	○	○		1	
データの分析	データの分析について理解する	○	○	○	・データの分析について理解しているか	1		
9 12	第1章 情報社会	01 情報社会の進展	・情報社会の変化について学ぶ。	○			・情報社会の変化について理解している。 ・情報社会の変化について説明することができる。	0.5
		02 知的活動の変化	・IoTとAIの技術について学ぶ。	○			・IoTとAIの技術について理解している。 ・IoTとAIの技術の利用方法を考えている。	0.5
		03 X-Techによる社会の変化	・産業分野での情報技術の活用について学ぶ。	○			・産業分野での情報技術の活用について理解している。 ・産業分野での情報技術の活用について説明できる。	0.5
		04 情報セキュリティ	・情報セキュリティの要素について学ぶ。	○			・情報セキュリティの必要性と3要素について理解している。 ・情報セキュリティの3要素について説明することができる。	0.5
		05 クラウドサービスの利用	・クラウドサービスの広がりについて学ぶ。	○			・クラウドサービスの発展について理解している。 ・オンプレミスとクラウドサービスの特徴について説明できる。	0.5
		06 法と制度の整備	・情報セキュリティに関する法整備について学ぶ。	○			・情報セキュリティに関する法整備について理解している。 ・情報セキュリティに関する法整備に基づいて情報セキュリティを判断しようとしている。	0.5
		07 メディアとさまざまなコンテンツ	・メディアとその特徴について学ぶ。	○			・メディアの種類とその特徴を理解している。 ・コンテンツの特徴に応じて適切なメディアを選択することができる。	0.5
	第2章 データサイエンス	01 データサイエンスと社会	・ビッグデータとデータサイエンスの概念について学ぶ。	○			・データサイエンスの要素技術や実社会における応用について理解している。	1
		02 データの収集	・データの種類について学ぶ。	○			・量的データと質的データの概念を理解している。 ・量的データと質的データについてそれぞれ具体例を示しながら説明できる。	1
		03 データの整理と変換	・データの整形について学ぶ。	○			・表形式のデータの表現について理解している。	2
		04 データの分析と可視化	・度数分布とヒストグラムについて学ぶ。	○			・度数分布やヒストグラムについて理解し、表計算ソフトを用いてそれらの作成ができる。 ・度数分布やヒストグラムをもとに実際のデータの特徴を説明することができる。	2
	言語 第3章	01 JavaScriptの基礎	・JavaScriptのプログラムの基本的な文法を学ぶ。	○		○	・JavaScriptのプログラムの文法を理解している。	2
	第4章 情報システム	01 社会の中の情報システム	・さまざまな情報システムについて学ぶ。	○			・さまざまな情報システムの仕組みを理解している。	0.5
		02 情報システムの分類	・情報システムの処理形態による分類について学ぶ。	○			・集中処理システムや分散処理システムについて理解している。 ・情報システムを処理形態による分類で説明することができる。	0.5
		08 ファイル操作	・ファイルオブジェクトについて学ぶ。	○			・ファイルを操作するためには、ファイルオブジェクトを生成する必要があることを理解している。 ・ファイルオブジェクトのメソッドを通して読み書きする方法を説明することができる。	2
		09 データベースの操作	・RDBの操作について学ぶ。	○			・表、行、列、選択、射影、結合、主キー、外部キーなどの項目について理解している。 ・与えられた操作に対して、どのようなSQLを使用したらいかを判断することができる。	3

15

1

2

3

4

5

6

7

9

11

13

14

16

19